富山県中小企業家同友会

38th 定時総会 議案書

出展120ブース、来場800名超で自社の強みをアピール
（同友フェスタ2016　2016年10月29-30日）

20年ぶりの富山開催となる女性経営者全国交流会。
PRにも熱が入る　（2017年6月15-16日開催予定）

2017年9月設立をめざす射水・氷見両支部。自社と地域を良くするために共に歩む
（呉西支部射水地区会・氷見地区会、2016年8月18-19日）

◈ 日　時　2017年4月25日（火）

受　付　PM 4：00～
第1部　総　　会　PM 4：30～
第2部　懇　親　会　PM 6：20～

◈ 会　場　富山第一ホテル　3階

富山市桜木町 10-10
TEL076-442-4411

総会当日には、この議案書をお持ちください。

同友会理念（考え方）

同友会理念とは、
１．三つの目的、２．自主・民主・連帯の精神、３．国民や地域と共に歩む中小企業　の３点です。

１．三つの目的

①「よい会社」をつくろう
同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強靭な経営体質をつくることをめざします。

②「優れた経営者」になろう
同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収しこれからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

③「よい経営環境」をつくろう
同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業を取り巻く、社会･経済･政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的･平和的な繁栄をめざします。

２．自主・民主・連帯の精神

①自主・・・会の主体性を守り、会員の自主性を尊重します。
②民主・・・民主的なものの見方や考え方を、積極的に実践し広めていきます。
③連帯・・・会員同士の腹を割った裸のたすけあいと、あらゆる階層の人たちと手をとりあっていく、外へ向けての協力・連携を進めます。

３．国民や地域と共に歩む中小企業

①企業活動が、反社会的、反国民的であってはなりません。豊かな国民生活の実現に貢献します。
②中小企業はすぐれた製品やサービスの提供を通じて、人々の暮らしの向上と地域経済の繁栄に尽くし、社会的使命をはたしていきます。
③同友会は、地域経済振興のために活躍することが期待されており、そのことを視野に入れた活動を行います。

21 世紀型中小企業（同友会型企業）とは

①自社の存在意義を改めて問い直すとともに、社会的使命感に燃えて事業活動を行い、国民と地域社会からの信頼や期待に高い水準でこたえられる企業。
②社員の創意や自主性が十分に発揮できる社風と理念が確立され、労使が共に育ちあい、高まりあいの意欲に燃え、活力に満ちた豊かな人間集団としての企業。

第38回 定 時 総 会

総　会　次　第

1．開 会 宣 言

2．開 会 挨 拶

3．来賓ご挨拶・祝電メッセージ披露

4．議 長 選 出

5．議　　事

第１号議案　「2016年度活動経過報告（案）」…… Ｐ－ 2
＜資　料＞　活動日誌…… Ｐ－ 19
第２号議案　「2016年度決算報告（案）」　（別　添）
「　同上　会計監査報告（案）」（別　添）
第３号議案　「2017年度活動方針（案）」…… Ｐ－ 24
第４号議案　「　同上　予　　算（案）」　（別　添）
第５号議案　「　同上　役員選出（案）」　（別　添）

6．議 長 降 壇

7．閉　　会

２０１６年度活動を振り返って

はじめに

2016年度は、第６次中期ビジョン（2013年４月～2018年３月）の４年目として、活動スローガン「私たちは地域を創る企業家になる！」を掲げ、以下の９つの課題に取り組みました。

①経営指針の実践に踏みだそう　②強みを活かし、新たな仕事づくりを
③環境変化に対応した強靱な企業づくりを　④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう
⑤学びあう場を充実させよう　⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを
⑦強い組織と安定した財政基盤を　⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう
⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を

主な特徴は以下の通りです。

１．次のステージにつなげるための新しい取り組みに挑戦しました。
・10 月に初めての「同友フェスタ」を実施しました。参加企業にとっては、今必要なこと・やるべきことを学ぶ機会となりました。
・第 20 回女性経営者全国交流会への準備が、本格的にスタートしました。全国大会担当は、2011 年青全交以来､女全交は 20 年ぶり 2 回目となります。特に今回の女全交は､企業と地域の未来に､私たち中小企業がどのように関わっていくのかを考える機会です。
・全県での取り組みは、目的や位置づけを全体で共有することが特に重要です。その意味では、組織運営のあり方を再確認する年となりました。

２.「人を生かす経営」の実践の大切さを再確認しました。
・私たちは同友会で何を学ぶのか？指針への理解は深まり、経営労働委員会だけでなく各支部でも成文化への取り組みが進められています。
・しかし、実践はできているのか？成果は出ているのか？指針成文化、採用、共育の三位一体が、各社で位置づけて取り組まれているのかが問われました。互いに検証し合う必要があります。

３．振り返れば未来！歴史から何を学ぶかを考えました。
・企業の基礎がしっかりしていないと、新たな展開には進めません。その意味では、自社や同友会の歩みを知る事は不可欠です。2 回の役員研修会は、その点を意識して内容を組み立てました。また、条例制定への取り組みは、3 つの目的の運動展開の歴史とも言えます。
・2018 年第 7 次中期ビジョンスタート、2020 年 40 周年と節目の年を控えて、成果と課題を整理しながら運動を展開する必要があります。

この一年間の活動を部署ごとに振り返ってみます。

〔１〕より深く、より広く学べる全県行事を振り返って

全県行事には、①支部・委員会・部会の活動の到達点や成果を集め、さらに大きな流れに強めて各活動へ還元する　②全会員が交流して、支部・委員会・部会ではできないスケールと広い視野から学ぶ場という役割があります。今年度取り組んだ、全県行事を振り返ってみます。

□第２７回経営研究フォーラム

『実践！未来につなぐ企業づくり、地域づくり～私たちは、地域を創る企業家になる！』をテーマに、2016 年 11 月 15 日（火）サンシップとやまで、ゲスト 6 名を含む計 161 名の参加で開催しました。

１．全体的には充実したフォーラムとなりました。分科会、アンケート結果から、それぞれテーマにふさわしい内容となりまでした。報告者選定から会社訪問、グループ長打ち合わせを含めた事前準備のスタイルも定着してきました。

　しかし、委員会との連携がうまく機能していない、支部担当の分科会に参加しなければならないので、行きたい分科会にいけない、という意見も多く今後の課題です。

２．記念講演は、実行委員数名で報告者打ち合わせに博多まで行くなど、事前準備が功を奏し、参加者が感動する素晴らしい内容でした。

３．当日の運営・設営については、事前準備や入念なチェックのおかげでスムーズだったと思います。但し、一部、遅刻の委員がいたなど、課題も残しています。

４．実行委員会の準備活動全般では、分科会は担当支部ごとに充実に向けて準備しました。懇親会の試食会を行うなど全体的には良かったと思われますが、実行委員の出席率が悪かったことは、今後の課題です。

５．成果と次回への課題

・経営研究フォーラムは、同友会活動の集大成の位置づけであることを会員に伝え理解してもらうことが重要です。総会で主旨や日程を説明し、参加推進に努めることが大切です。

・講演者や報告者の選定は最重要課題です。十分な準備期間で情報収集に努め、協議して進めるが必要です。

・会場都合で平日となり、会員の参加が少なく、さらに分科会内容の関係で行政関係者も例年に比べ減少し、全体として参加者が減少しました。

・次年度は女全交、新支部設立もあり、開催時期の検討が必要です。また、形態も現状に固執せず、実行委員会主体の講演会とグループ討論など、検討も必要です。

・実行委員会体制も、各支部の人数や出席する委員で構成する必要があります。

□新春のつどい

『「華」～育んできた“つぼみ”を今こそ咲かせよう！』をテーマに、2017 年 2 月 4 日（土）ホテルニューオータニ高岡にて 226 名の参加で開催しました。

１．テーマには、わたしたち企業家一人ひとりが「自分がやらんなん！」という主体性と使命感を持って、地域の「華」になろう！という思いを込めました。

２．アトラクションの『５支部長による魂の同友会太鼓』においては、各支部長の勇姿を目の当たりにし、想像以上の盛り上がりを見せ、会場の同友会会員の魂が一つになりました。

３．新会員紹介の際は、興奮冷め止まぬ支部長から新会員を紹介して頂くことで、新会員さんも熱い自己紹介となり、新しく強い風を感じることが出来ました。

４．理事を中心に、新会員やゲストの方々へ何度も声掛けし、その意気込みが会員の心に届き、過去最高の参加人数と最高の盛り上がりを達成することが出来ました。

◇支部活動（各支部）及び活動全体（理事会）の自己診断結果

①経営指針づくりは、他の経済団体にはない同友会ならではの運動です。

　支部平均 2.08 → 2.24 とアップしました。城北、呉西が大きくアップしており、取り組みの強化がうかがえます。理事会は 2.3 → 2.3 と横ばい。支部や理事会で、経営指針成文化及び実践について具体的な実践事例を交流し合うことで、運動を拡げていきましょう。

②三位一体の推進については、支部平均 1.72 → 1.72 と横ばい。理事会は 2.1 でアップ。

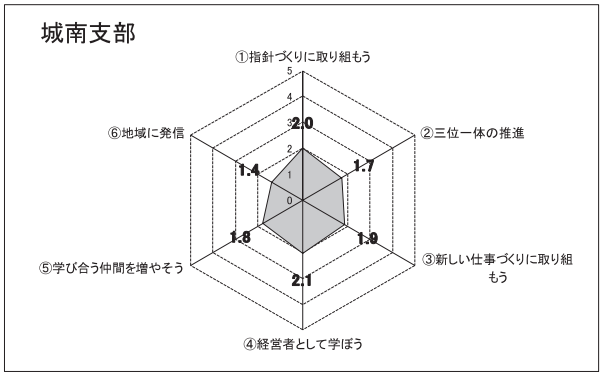
　経営指針を実践していく上で、共育・共同求人の取り組みは欠かせません。支部活動の中で三位一体に関わる経営課題を語り合い、必要に応じて経営労働・共育・共同求人の各委員会への参加をすすめていく動きができれば、さらに推進が加速するはずです。そのためにも理事や支部幹事から体験・体感していくことが求められます。

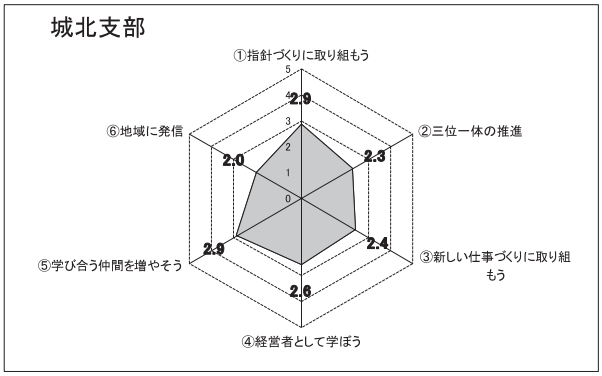
③新しい仕事づくりへの取り組み状況は、支部平均 1.86 → 2.0 にアップ。理事会では 2.3 → 1.6 へと大きくダウン。城南、城北、となみ野がポイントアップしました。
同友フェスタ等の機会や日々の活動の経営談義で、今後さらに会員どうしがお互いを知り合っていくことが、強みを生かしあう連携の第一歩です。新しい仕事づくりの必要性について、さらに議論し認識していきましょう。

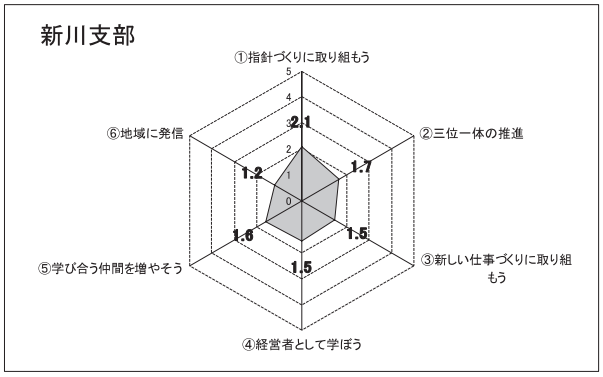
④経営者としての自己変革は、支部平均 1.84 → 1.96 とアップ、理事会 2.1 → 1.9 とダウン。
まずトップから変わるという意味で、「経営者としての自己変革」は重要な課題です。
同友会で学び、強靭な企業づくりの第一歩として、経営者がどのように変革していくかが問われています。特に理事の自己変革が求められています。

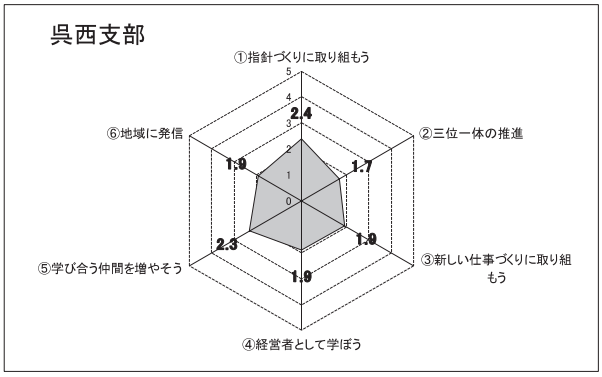
⑤仲間づくりでは、支部平均 1.98 → 2.06 とアップ。上がった支部、下がった支部が見受けられます。仲間づくりが好調な支部は、他の項目でも高い結果を残しています。新しい仲間が増えると結果として支部活動が盛り上がり、好転していくのではないかと考えられます。
理事会では 2.3 → 2.1 と減。まずは理事から同友会で学び、実践した自らの経験を知り合いの経営者に語り、仲間づくりを進めていきましょう。

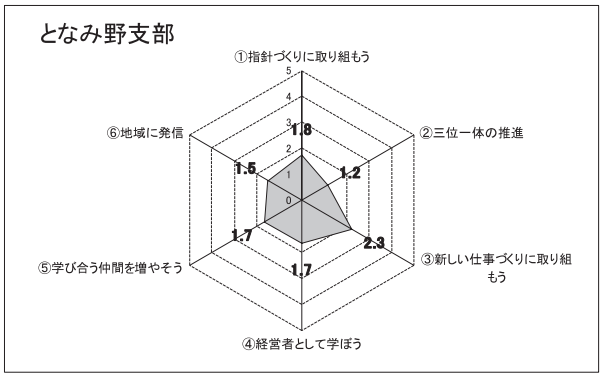
⑥地域への関わりや条例への取り組みは、支部平均 1.54 → 1.6 とアップ。理事会では 2.1 → 1.8 とダウン。地域づくりについて、役員間で認識を高め、各支部へと拡げていきましょう。地域づくりと自社経営の関係性について学び、中小企業家が地域づくりにかかわっていくことの重要性を自分ごととしてとらえ、同友会の仲間とともに進めて参りましょう。

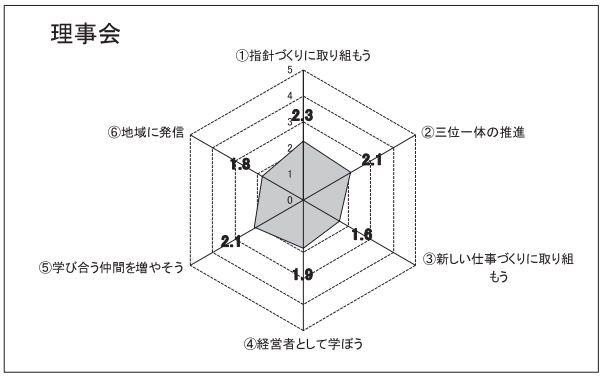












≪総括≫

あらためて「人を生かす経営」とは何か？「労使見解」の本質とは何か？を会員どうしで語り合い、確認していくことが必要です。同友会で学んだことを「自社でどのように取り入れ生かしていくか」を社員と語り、毎年の具体的な取り組み計画として経営指針に反映させる。そして、会社がどのように変化･成長してきているかということも、社員と共に定期的に振り返り、修正していく。

このようなサイクルを繰り返しながら、同友会の様々な取り組みを活用して、会社を良くしていく企業家を増やしていくことが課題です。さらに、運動を通して自社と地域の関わりをより深く理解し、地域に何ができるかを語り合い行動に移していくことが、私たちの取り組みのスタートではないでしょうか。

成熟度レベル

0「存在しない状態」課題や必要性を認識していない
1「初期の状態」課題や必要性を認識しているが、場当たり的
2「反復実施」課題解決の手順や仕組みが不十分で、個別的、部分的実施
3「定義され標準化されている状態」課題解決の手順が確立され、実践されている
4「管理されている状態」課題解決の手順が確立され、実践され、さらに実践されている
5「最適化している状態」継続した改善により最適な状態となっており、外部から高く評価されている

①経営指針づくりに取り組もう
0「経営指針づくり」の必要性を認識していない
1「経営指針づくり」の必要性を認識しているが、明確でなく、その対応は場当たり的
2「経営指針づくり」の取り組みは、個別的、部分的に依存している
3「経営指針づくり」は、支部の知恵と情報を集めて体系的に策定している
4「経営指針づくり」の策定の仕方、情報の活用などについて支部内で定期的に見直されている
5「経営指針づくり」は、内部・外部環境の変化に適応し、支部会員の動機づけがなされ、全員参加で実現し外部からも高い評価を受けている

②三位一体（指針・共育・求人）の推進
0「三位一体」の必要性を認識していない
1「三位一体」の必要性を認識しているが、明確でなく、その対応は場当たり的
2「三位一体」の取り組みは、個別的、部分的に依存している
3「三位一体の活動」は、支部の知恵と情報を集めて体系的に策定している
4「三位一体の活動」の策定の仕方、情報の活用などについて支部内で定期的に見直されている
5「三位一体の活動」は、内部外部環境の変化に適応し、支部会員の動機づけがなされ、全員参加で実現し外部からも高い評価を受けている

③新しい仕事づくりに取り組もう
0「新しい仕事づくり」の必要性を認識していない
1「新しい仕事づくり」の必要性を認識しているが、場当たり的
2「新しい仕事づくり」の仕組みが不十分で、個別的、部分的
3「新しい仕事づくり」を自覚した仕組みがあり、組織的に取り組み発信している
4「新しい仕事づくり」は組織的に取り組み発信しており、その仕組みは定期的に見直されている
5「新しい仕事づくり」は継続した改善により最適な状態となっており、外部から高く評価されている

④経営者として学ぼう
0「経営者」としての自己変革の必要性を認識していない
1「経営者」としての自己変革の必要性を認識しているが、その取り組みは場当たり的
2「経営者」としての自己変革に取り組みはじめているが、その対応は個別的、部分的実施
3「経営者」としての自己変革を計画的・系統的に取り組み、全社的にリーダーシップを発揮させている
4「経営者」としての自己変革を計画的・系統的に取り組み、やり方を定期的に見直し、社内の成長意欲の高い社風を作っている
5「経営者」の企業変革のリーダーシップが発揮され、社内の成長意欲の高い社風が確立され、社内外の信頼が高い

⑤学び合う仲間を増やそう
0「仲間づくり」の必要性を認識していない
1「仲間づくり」の必要性を認識しているが、場当たり的
2「仲間づくり」の手順や仕組みが不十分で、個別的、部分的実施
3「仲間づくり」の手順や仕組みが確立され、全体で実践されている
4「仲間づくり」の全体で仕組みが確立され、定期的に見直されている
5「仲間づくり」は継続した改善により最適な状態となっており、組織発展の原動力となり、外部から高く評価されている

⑥地域と関わり地域に発信し、条例・憲章の学習運動をすすめよう
0「地域への関わり」や「条例・憲章」の必要性を認識していない
1「地域への関わり」や「条例・憲章」の必要性を認識しているが、よくわからない
2「地域への関わり」や「条例・憲章」の学習が不十分で、その実践は個別的、部分的実施
3「地域への関わり」や「条例・憲章」の学習する仕組みと体制があり、実践されている
4「地域への関わり」や「条例・憲章」の学習運動が確立され、実践され、定期的に見直されている
5「地域への関わり」や「条例・憲章」の学習運動は、継続した改善により最適な状態となっており、外部から高く評価されている

〔２〕経営と会の課題を総合的に進める、支部活動を振り返って

各支部の活動の特徴は、以下の通りです。（内容詳細は活動日誌参照）

＜城南支部＞

スローガン		自社の経営に活かせる学びをし、そして動く！	
		前進した点	残った（or新たな）課題
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	グループメンバー全員でグループ長を支え、一丸となって運営をすることができました。それらが功を奏し、幹事会の出席率上昇にも繋がりました。	参加できない方へのフォローができませんでした。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	同友フェスタに参加した企業は、お互いを深く知ることができました。（顔と仕事がわかりました） 深い考えや想いが見え、体験談も多くて良かったと考えます。	会社の変化に繋げる事ができませんでした。また、ゲストへのＰＲ方法にも課題が残りました。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	例会報告者と打合せの為、グループメンバーで県外に出られたことや、実践に近い具体的事例を学べました。	このグループはES・CSをテーマに３年計画で運営しており、2016年度で２年目に入りました。しかし、ES学習会の参加者の中には未だに理解の浅い者もいます。また、時代認識が弱い部分も見られました。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	登山交流会では、互いを知り絆を強めることができ有意義なものになりました。 例会では自ら実践し報告することができました。 相談できる仲間が増えました。	メンバーが固定化されてきました。 例会・グループ会を行う達成感で疲れました。
	⑤学びあう場を充実させよう	財務２回シリーズでよく勉強できました。 前半は予定通りグループ会を進められました。 主体的・積極的なメンバーが増えました。	お互いの課題を深く話す機会が少ないことから、グループ会の在り方を見直す必要があります。 後半は計画が甘く、予定通り進められませんでした。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを		ビジョンづくりの意識が薄かったと思います。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	外部からの企業報告が参考になりました。 事前打ち合わせが、大変良かったと考えます。	外部報告者が入会まで至りませんでした。 報告者の定義がありませんでした。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	グループ長が頑張ってくれました。 社員参加が良かったと考えます。 幹事の集まりが良くなってきました。	開催することが目的になり、本来の目的を見失っていました。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を		金融機関や他団体の参加がありませんでした。
その他	⑩独自の取り組み	旭川女全交には、８人の参加がありました。 グループ長は幹事を中心にできました。 電話連絡網を利用し出欠回答率がアップしました。 懇親会にて楽しい雰囲気づくりを心掛け、相互理解に努めました。	ハガキは新会員にも必要、電話連絡網が負担、役員の後継問題、自社の経営を語る場が少ない、ゲスト参加が少ない、参加者の固定化があるなどの課題を残しています。

＜城北支部＞

スローガン		仲間の夢を応援しあう、日本一つながりの強い支部を目指します！	
		前進した点	残った（or新たな）課題
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	・理念塾受講者４名とは、受講期間中・その後・現在と昨年より多くの会員が多くの機会関われています。 ・また、４名のうち２名が第22期経営指針を創る会へ臨んでいます。	・理念塾受講中に受講者との関わりの中で、その人の抱えている経営課題等、本音の深いところまで踏み込めませんでした。（受講生から心を開いてもらえるところまでは、導けませんでした）
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	・城北ジャムの中で経営談義を毎回実施し、会員同士にて語り合う場、お互いを知る機会を増やしました。	
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	・雑学探究会には、行政書士の会員を講師に迎えて勉強会等を実施しました。（これのみの活動と誤解されないよう）	・５年先を意識出来るような取組みを考えていきます。同友会を知る会等で、経営環境レポートを利用してみる事を検討します。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	・城北ジャムへの参加率が高く、かつ継続しています。特に新会員やゲストの参加が目立ちます。背景には会員の積極的なお誘いがあります。	・ベテラン会員、中堅会員の参加率を上げることを目指します。
	⑤学びあう場を充実させよう	・全国行事への参加が活発になってきています。特に、新入会員や入会間もない会員の積極的な参加が目立ちます。	・同友会を知る会やジャム等の機会にて、各委員会・部会への認知度を上げて、同友会を活用してもらえるよう、積極的な参加を促進します。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	・オープン例会では、報告者会員の社員が参加されました。また、この例会では、社員と共に参加する会員が増えました。	・出来れば各委員会、部会へも会員やその社員も参加し関わっていけることを目指します。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	・新入会員には入会後即、声をかけて城北ジャムに誘い、参加して頂いております。	・入って良かったと思える会員を増やしていく取組みの一環として、各委員会、部会へ会員の参加を促していきます。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	・城北ジャムの中で経営談義を毎回実施し、会員同士にて語り合う場、お互いを知る機会を増やしました。	・新しい仕事づくりにつきましては会員個々にての動きはあるものの支部として組織的な動きには、まだ成っておりません。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	・今期、全く手が出せなかった未活動の分野でした。	・次年度への課題として、例会実施等の検討をします。
その他	⑩独自の取り組み	・理念からスローガンとなる『仲間の夢を応援しあう、日本一つながりの強い支部を目指します！』を実践中です。	・次年度、このスローガンを継続し活動計画を立案していきます。

＜新川支部＞

スローガン		来てよかった・楽しいと実感できる新川支部を！！	
		前進した点	残った（or新たな）課題
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	・指針入門の運営体制がシッカリしてきた。今後に受け継がれる組織が出来てきた。 ・助言者の質が上がってきて、的確な助言が出来る様になってきた。 ・受講者の理念の内容がシッカリするまで補講を行っている。	・三位一体を活動の柱にしていくため 新入会員全員の受講の義務化してはどうか？
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	・事前の打ち合わせや準備など入念にした結果、内容としては良くなっている。 ・参加したゲストの入会に繋がっている。	・会員同士のビジネスが、具体的に進んでいるのかその進捗状況は把握出来ていない。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	・９月例会は、上市町商工会青年部とジョイントで開催したが、同友会の認知度増や活動を知ってもらえた。結果として、入会につながった。	・各地域の経済団体との交流を進めることが必要と考えるが、その場合は、キーマンになる方との関係性を重視することが重要
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう		・本音で語り合える時間がとれていない。
	⑤学びあう場を充実させよう	・グループが、自主的に運営している。内容も金融機関や行政の担当者招いての勉強会や意見交換会など、地域に根付いた取り組みになってきた。	
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを		・社員が育たないと企業の成長につながらない。支部として教育へのかかわりが薄い。一緒に学ぶことに意味がある。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	・上市を重点地区にして例会に取り組んだことで、会員が増えたり、増える兆しが見えてきた。 ・例会後すぐに上市で「知る会」を開催したことで、成果があった。	
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう		
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	・ハッピー上市会は、３年を経過し年間通して行われた。	・各地域の会員が地域づくりにかかわっていくためにも、中小企業振興条例の勉強会する必要がある。
その他	⑩独自の取り組み		・幹事会を、運営＋学びの場にするため、時間配分・運営・参加メンバーの見直しなどが必要。 ・本来の支部とはどうあるべきなのか？模範となる新川支部に！

＜呉西支部＞

スローガン		仲間の輪を広げ、活発な地域づくりをしよう！	
		前進した点	残った（or新たな）課題
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	今年度の『経営指針を創る会』受講者は４名、『経営理念塾』受講者は２名で内１名は両方受講しました。特に、次年度の新支部創設に向けて、各地区１～２名の受講となり、例会・フォーラム・経営指針の成文化へとテーマが繋がったと思われます。	来年度は呉西から２つの新支部が誕生しますが、理念塾は、旧呉西で実施することになりました。３支部として協力体制を持続させていくことが、課題だと考えます。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	同友フェスタには呉西支部より多数の参加がありました。会員相互の仕事内容がよく見えた、という声が多く上がっていました。また、会員間でのコラボも発生しています。	同友フェスタの様な機会が継続して推進していけたら良いと思いますが、継続もまた、課題は多いと思います。今回の課題をきちんと踏まえて、実施していけたらと思います。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	経営環境レポートの発表を、新会員及び活性化委員会との合同で実施することができました。その中で、環境の変化に合わせて、新しい仕事にチャレンジしている企業が多いことや、利益率向上に努めていることが伺えました。	会員活性化委員会との連携については、もう少しベテラン会員の参加を多くすることが課題だったと思います。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	新支部創設にむけて、各地区会では多くの会員への声掛けを実施し、新支部創設に向けて本音で話し合える場づくりができてきたと思います。特に会員同士にその意識が芽生えたと思います。	新支部創設に向けて、各地区の全員参加を目指していくことが一層の課題です。
	⑤学びあう場を充実させよう	２回の例会は、『経営指針の実践報告』と『共同求人活動の実践報告』のテーマで学びました。 『経営環境レポート発表会』はベテラン会員と新会員の組み合わせで発表しました。 同友会を知る会は、地区別に開催し体験報告から学ぶなど、学びの場はとても充実していました。	来年度は新支部創設により支部会勢が一時縮小しますが、その分、より顔の見える支部となるため、今年入会する新会員にはより細やかに、一人ひとり学びの場を提供できるようにしていきたいと思います。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	同友フェスタが開催され、社員と共にブースの作成と自社の強みの提案などが出来て、『人を生かす経営』の一環となったと思われます。フォーラムでは、経営指針の成文化で社員と共に地域貢献をされている報告で、たくさんの気づきもあったと報告を受けています。	来年度は新支部毎に企業訪問を実施し「顔の見える地区会」を目指していきたいと思います。また、訪問だけで終わらせず、経営課題を明確にし、検証できる体制にしていきたいと思います。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	新支部創設に向けて、各地区毎にゲスト紹介名簿を作成し、例会・地区会・経営研究フォーラムなどに積極的にゲストをお誘いできたと思います。	財政基盤の強化は、今後も継続課題ととらえています。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	同友フェスタの実施により、呉西支部では４０名程の会員が出展し、お互いの仕事を知ることで、互いの強みを生かし、弱みを補える関係性を強め、産業連携を推進できたと思います。	企業間連携は、引き続きフェスタ等の実施により、さらに将来を見据えた取り組みにしていけたらと思います。しかし、支部内でエネルギーシフトの勉強会はできませんでしたので、次年度の課題です。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	射水地区では、岡田先生をお招きして、中小企業振興条例の制定に向けての勉強会を３回実施しました。	「地域にあてにされる会」には程遠いので、まずは会員数を増やし、「地域に存在感を与えられる会」にすることが課題です。そのために、100名以上の会員組織を目指します。
その他	⑩独自の取り組み	新支部創設に向けて、各地区毎の増員推進に注力しました。各地区毎にゲスト紹介名簿を作成し、それをもとに、定期的にゲスト訪問を行いました。そのため、例会や地区会、経営フォーラムでは多くのゲストを動員できました。	今年度は増員推進に力を入れたため、参加の少ない会員への訪問ができませんでした。また、経歴の長いベテラン会員にはまだまだ参加協力をお願いしたいので、会員活性化委員会（プラチナ会）等の充実は次年度の課題です。

＜となみ野支部＞

スローガン		会員感の連携を深め、地域と共に、未来を変える	
		前進した点	残った（or新たな）課題
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	県の指針セミナーを受講するメンバーが、２人となりました。支部の指針セミナーの継続的な活動の結果が実ったものと感じています。	企業変革支援プログラムの活用が出来ていない状況です。また、支部の指針セミナーの受講生の方々に、県への声かけをしていいく必要性があります。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	ビジネス交流委員会の活動を通して、会員間のビジネス交流が活発になり、業務提携やコラボレーションも多く実現していると思います。 また、「同友フェスタ」にも支部から多くのメンバーが参加しました。	新たな会員の獲得に向けた対策や、マンネリにならないように活動内容を工夫することが必要になっていると感じます。 また、農業分野・介護分野の方々の仲間づくりも継続して取り組んでいきます。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	入会間もない方に社外重役会議で発表してもらう事で、自社の経営について学び・気づく機会を提供出来たように思います。 ゲストのお誘いもまだ数は少ないですが、出来たと思います。	社外重役会議に取組む人数が、まだまだ少ない状況でした。初心者の方と中堅の方と両方発表してもらい、初心者の方に気づいてもらえるような改善もしたいと考えています。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	今年度は、「支部設立10周年」特別例会を企画、開催させて頂きました。企画・準備段階そして各支部への参加呼びかけ等を通じで支部の会員同士の絆づくりが前進したものと感じています。	それぞれの活動の参加人数が少なくなりつつあります。また地域毎のグループ活動の必要性があるように感じています。先ずは各地域毎の関係性が重要だと感じています。
	⑤学びあう場を充実させよう	年間計画の活動については、当初のスケジュール通り遅れることなく、ほぼ予定通りに進んでいると思います。	活動計画は達成できていますが、その活動の内容や参加者の充実度についてはまだ不足しているように感じます。事前準備に多くのメンバーが携わる必要性があります。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	人数はまだ少ないですが、各活動への社員の方の参加が進んできました。その事により、立場の違い等からグループ討論の内容に深みが増し、お互いに学びと気づきにつながっていると感じています。	社員の皆さんの参加が、もう少し増えれば良いなと感じています。 また、会員と社員が一緒になって企業変革プログラムを活用するまでには至っていません。今後の課題だと考えています。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	「支部設立10周年特別例会」を開催しました。 各支部からの参加者もほぼ計画通りとなり、新たな支部づくりをしている呉西支部や他支部の方々にも概ね好評で、何らかの刺激を提供できたと感じています。	節目の10周年特別例会は無事に開催出来ましたが、仲間づくりの目標人数にはまだまだ達成していません。既存会員（ご無沙汰会員）の方々への訪問活動や声かけをしていく必要性があります。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	ビジネス交流委員会の活動を通して、少しずつですが、新たな仕事づくりの活動や会員以外の方々との連携や交流が出来ていると思います。	次年度以降の計画でしっかりと会員以外の方々との交流の場を計画し、実践していく中で、お互いの活動の必要性と交流、連携ができるようにしていきたいと考えています。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	振興条例の交付を受け産業振興会議が設置され、会員も参加し今後も継続して条例の浸透・展開に向けて進んでいくことが出来ています。 また、女全交に向けて新たに南砺市長と会員が語る場が出来ました。更に、今年度は小矢部市でも条例制定に向けて会員が参画して前に進むことになりました。	今年度は南砺市だけでなく小矢部市での条例策定も展開されましたので、後は砺波市だけとなっています。砺波市のメンバーと共に引き続き粘り強く、振興条例策定の運動を展開していく必要があると思います。
その他	⑩独自の取り組み	理事メンバーには、今年度は来年の女全交に向けて、全国行事への参加をお願いさせて頂きました。まだまだ参加人数は少ないのですが、新たな学びと気づきの場になったと思います。	理事以外の幹事メンバーからの全国行事への参加はまだまだ出来ていない状況です。また、女性会員の増強も結果としてはまだ出ていません。引き続き、諦めることなく活動を継続していきます。

※各部署の取り組みは、以下の課題①～⑩の視点でまとめました。

課題①　経営指針の実践に踏みだそう
課題②　強みを活かし、新たな仕事づくりを
課題③　環境変化に対応した強靭な企業づくりを
課題④　支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう
課題⑤　学びあう場を充実させよう
課題⑥　社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを
課題⑦　強い組織と安定した財政基盤を
課題⑧　新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう
課題⑨　全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を
課題⑩　独自の取り組み

〔３〕経営と自己の革新を進める委員会・部会活動を振り返って

◆活動基盤を強める、情報化推進本部・総務・仲間づくり・政策

◎情報化推進本部

年度テーマ「すべての会員に広く、深く同友会の魅力をお届けする！」で活動を展開しました。

具体的には、各支部、各部会、委員会などの魅力を広めるために、ずっと課題だったホームページのリニューアルに全精力を結集させました。リニューアルに伴い、情報発信のあり方や同友会全体の強み弱み、特徴なども再認識することが出来ました。これらを、わかりやすく伝えるホームページ作りが出来たと思います。

また、情報化推進本部としての活動では、会員同士が、１つのテーマに向き合い、意見を出し合い、協力して進めることが出来たと思います。

女性部会新会員さん歓迎会

◎総務委員会

課題⑤⑦⑩

・同友会研修会として７月に、「ふりかえれば未来」というテーマで富山同友会の歴史を学び、３月には中同協の松井専務幹事をお招きして、同友会活用塾を一泊で開催しました。世界情勢から中小企業を取り巻く状況、全国の会員の実例から学ぶ素晴らしい内容でした。次年度からも引き続き松井専務幹事に研修をお願いしたいと思います。

・富山同友会の活動は、ますます多岐に渡ってきていますが、簡素化や統合を図る必要があると思います。特に事務局に負担のかからない運営に努めていくことが大切です。

・本来、会員ができる仕事を事務局に押し付けている事が多々あり、事務局員への負担を少なくするために、会員と事務局の仕事の線引きを行なう必要があります。

◎仲間づくり協議会

１．会員を増やす活動　入会数４５名

増やす取り組みは、会全体ではなく一部の役員に限られているのが現状です。全体で取り組めば、もっと多くの成果を生むことが出来ます。会員を増やす活動は、かけた時間に結果が比例すると考えますが、短絡的でない長期的な地道な活動がより成果につながると考えます。

２．会員を減らさない活動　退会数４４名

一般企業の営業とも通じますが、新規獲得が難しいなら、既存のお客様を大切にしなければなりません。考え方や手法はいろいろあると思いますが、フォローに回る事と、新規は別のように考えられるかもしれませんが、本質的には、会員が良い会だと思える活動をしっかりと行うことで、入会も増え退会も減ることにつながると思います。

３．成果を検証改善する活動

成果の基準作りなどに時間が掛かり、改善までには繋がりませんでした。しかし、検証を１度は行うことができたので、その結果を来年度の計画に活かせるようにしたいと思います。

４．協議会を活性化する

中同協で毎年開催する組織問題全国交流会に、各支部から数名ずつ参加してもらうことで、各支部の情報交換や全国の素晴らしい事例に学び各支部に取り入れて欲しい、との思いで参加を呼びかけましたが、参加者は前年度ほどにはなりませんでした。

また、予定した仲間作り例会を開催できなかった事は、非常に残念です。次年度は開催します。

◎政策委員会

課題⑨　地元会員の働きかけの成果として、８月に京都大学　岡田知弘教授による中小企業振興基本条例（以下条例）の勉強会が、射水市で開催されました。憲章条例推進月間事業と位置付け、会内外含めて１２０名近くの出席となりました。射水市や射水商工協議会の全面協力で開催しましたが、射水市の条例制定に向けてよいスタートとなりました。

同様に、小矢部市では検討会議のメンバーにとなみ野支部幹事長が加わるなど、各地域で条例への認識が高まってきた結果ではないかと思われます。

しかし、同友会が目指す条例制定の目的や道筋とは異なる進め方で制定される傾向もあり、各行政の現状を見据えてどのように関われるかを検討していくことも必要です。

景況調査は、２年目に入り、回収数のアップや分析方法が課題です。会員の実態を表すデーターとして、県商工労働部長との懇談会、富山県や自民党県連への政策要望提言、マスコミ各社との久しぶりの懇談等で、貴重な資料として位置付けられています。

会員の政策課題への意識や関心を高めるためには、委員会からの投げかけ強化や情報提供が必要です。

課題⑩　経営研究フォーラムは、城南支部との協力で分科会を担当しました。当初、条例との関わりが薄いのではないかと危惧しましたが、三楽園坂井会員の庄川町観光組合での取り組みは地元連携の素晴らしい報告で、同友会の考える地域振興の取組と合致した学びの多い分科会となり、今後の成果に期待がもてます。

さらに、朝日町や上市町などの取り組みからも学ぶ必要があります。市町村との関係づくりの良い環境が整いつつある今、会として関わり方を具体的に考える必要があります。

中小企業を取り巻く政治経済環境が目まぐるしく変わり、その厳しさを増しています。委員会への期待と役割は増大していますが、体制は十分でなく充実を図ることが急務です。

◆活動交流を広げ強靭な経営体質をつくる取り組み

◎経営労働委員会

課題①③⑤⑥

１．経営指針成文化と「実践」運動推進については、「21 期経営指針を創る会に」は 12 人が受講し、経営者自身について深く掘り下げ経営指針を成文化しました。経営指針の新しい構成要素「10 年ビジョン」をカリキュラムに取り入れました。「10 年ビジョン」は、助言者も一緒に自社の 10 年後について成文化を進めることができました。

今年度も、助言者として参画いただける会員が少ない状況でした。助言者がお互いの実践を確かめ合える機会であり、自分たちの学びのために参画するということの共有を、もっと進めなければなりません。

２．経営指針実践推進については、委員会後半で、参加者の実践体験や事例の交換を引き続き行いました。大きな課題は、創る会と同様で参画メンバーの減少です。各社で実践していることは多くあるのに、それを仲間の私たちが知らないことも多く、お互いの実践交流をもっと広く行っていく必要があります。

各支部・共同求人・共育・各委員会との連携がなかなか進みませんでした。実践の第一歩として、まずは経営指針・共育・求人の三つに取り組んでいくことを伝え、「チャレンジしてみる、

やってみる」という会員企業を増やしていくことが必要です。

３．企業変革支援プログラムについては、ステップ１は、今期も体験者が増えたことは良かった点となりますが、継続して活用されているかといったフォローアップができませんでした。

ステップ２については、委員会内で「企業プロフィール」を書くことからスタートし、最初の項目から一つ一つ取り組んでいきましたが、計画通りに進めることができませんでした。

経営指針との関連性を広く理解いただき、活用できることを周知する必要があります。

障害者問題部会支援学校との懇談会

４．労働環境改善は、経営指針を成文化し、実践する上で両輪として進めていくべき重要課題ですが、十分に進めることができませんでした。

自社が「働きがいブラック企業」となっていないか？社員を「パートナーとして処遇」できているか？「企業は砦」の意味を理解し、本気で取り組めているか？などなど、富山同友会でも企業家どうしが相互に確認し、着手していかねばなりません。

５．全体としては、委員会に参画する会員が少なくなってきているのが大きな問題です。（運動の意味を共有し、行動する仲間づくりが弱くなってしまいました。）企業家の仲間同士で「労使見解」をあらためて読み直し、議論し深い意味を共有し、原点に戻っていくことが必要ではないかと考えます。

富山同友会ならではの「経営指針の実践」「労働環境改善」を打ち出していけるよう、運動の理解者を増やし、取り組み事例をどんどん生み出していける経営労働委員会になっていきたいと思います。

◎共同求人委員会

課題①　過去最高の参加企業数となりました。参加企業の採用意欲と人に対する重要性の認識が高まっています。新倫理憲章の推進に伴い、大手企業も表向きは採用活動や入社試験を遅らせていますが、実質は名称を変えて水面下でより活発に行なっているのが実態です。いずれにしろ、従来より短期間で決着する為、より大手が優位というのが現状です。

「少子化」や「生産年齢人口減少」に対する影響も大きく、従来と同じやり方では、厳しくなる一方です。委員会では、今までに増して、個々の学校と組んだ説明会や短期インターンシップの強化などにこまめに力を注ぐ方向です。そのためにも、ベースになる同友会３つの柱である「良い会社・良い経営者・良い経営環境」の原点に立ち返り、それぞれの経営者・会社がレベルアップしていくよう、今まで以上に工夫と努力をしていかなければなりません。

課題②　中小企業の求人は、大手企業に比べ厳しさが増大していますが、参加企業各社が企業体質改善や付加価値創造に懸命に着手をしているかどうかが、大きなポイントとなります。自社のウリを明確にし、世の中での役割を示し、他社にない価値創造を伝える。これがないと生き残れません。「この指とまれ！」と学生にしっかり訴えられるものに、磨きをかけて行くことが必要です。同時に、労働環境や就業規則などにも特色を持たせるためにも、ヒントがどんどん発見できる刺激ある委員会にしたいと考えます。

◎共育委員会

課題①　研修等のスケジュールに追われ、三位一体である経労・共同求人委員会との連携の話し合いの場が持てませんでした。委員会メンバーの増員が課題です。

課題②　フレッシュマンフォローアップ研修会のアフターフォロー研修に、次の階層のチャレン

ジリーダー参加の社員にアドバイザーとして参加してもらいました。初めての試みでしたが、より近い年齢どうしのグループ討論は、成果があったと思います。

他の研修会も次の階層の社員に参加してもらいたいと考えましたが、スケジュール・研修参加人数などが非常にタイトになることが見えてきました。今後の検討課題です。

新川支部商売交流会

課題③　研修での「心のこもった、元気のいいあいさつ」など、少し意識することができました。

課題④　研修の前に経営層向けの事前説明会を開催することができました。一方で、事前説明会に参加いただけない企業もあり、研修会の目的など委員会の意図を伝えることが課題です。

課題⑤　ＳＮＳでの情報発信は、各研修時に行うことができました。ただし、ＳＮＳ参加者が少ないため情報発信に限界があり、今後の課題です。

課題⑥　マネジメント研修は、内容検討の為今年度も中止せざるを得ませんでした。

課題⑩　「出張お出かけ委員会」と称し、委員会メンバー以外の会社へお邪魔して、その会社の共育の現状について語っていただきました。月１回の委員会では出張委員会の効果も限定的で、委員会活動への理解を深める意味でも、やり方等を検討する必要があります。

●経営課題に直結する取り組み

◎新しい仕事づくり協議会

課題②　新しい仕事づくりに関する各支部や各部会等との例会や学習会は進められませんでしたが、１０月２９日～３０日に開催された同友フェスタ２０１６の成功に向けて、数多くの事前学習会や実行委員会などを行い、目標の１２０ブースを超す出展を頂きました。新規事業開発や会員相互の連携等は、少しは前進できたのではないかと思います。

また、行政や外部支援機関と積極的に交流することもできました。今回のフェスタを活かし会員企業が新しい仕事づくりにチャレンジすることを期待すると共に、地域との関わりも深めて行きたいと思います。

◎新産業創造部会（クリップ富山）

課題①～③、⑤⑥⑧⑩

環境部会との共催で、9月には南砺市エコビレッジ構想の見学、10月にはＹＫＫパッシブタウンの見学を行い、これからの地域と企業の在り方を考えました。

独自の活動を計画的に展開できませんでした。全体会を２回開催し、部会の目的・存在価値を改めて考え活動に生かしていくことを確認しました。

◎障害者問題部会

課題①～③、⑦

１．重点方針の一つに仕事見学会の充実を掲げ、取り組んできました。５月、１１月に支援学校の先生や受け入れ企業との意見交換会を開催し、それぞれの立場の違った視点での意見を取り入れることで、今後の仕事見学会の充実を図ることが出来ました。

２．企業側の視野を広げ、学校や生徒への理解を深めるため、富山高等支援学校（７月）、高岡聴覚総合支援学校（２月）の学校見学を行いました。生徒達の大きな可能性を秘めた力を目の当たりにし、これからの共生社会に障害者雇用が必要不可欠であることを実感しました。

また、学校との協力体制の強化にも繋がりました。

３．１０月の同友フェスタに部会として参加し、これまで部会と接点のなかった会員の皆さんに、部会活動を知っていただくきっかけとなりました。障害者雇用についてのアンケートには、８７社からの回答を頂き、今後の活動に繋げていきたいと考えます。

４．2017 年東日本地区障害者問題交流会（3/2-3 栃木にて開催）に３名が参加しました。東日本地区の有志と交流し部会の活性化に繋げていきたいと思います。

５．昨今の大変な人手不足の中で、障害者雇用は対応策の一つとして重要になってくると考えられます。これまで障害者雇用に関心のなかった企業にどう接点をもってもらうかは大きな課題です。新年度はそういった取り組みを地道に一歩一歩確実に進めたいと思います。またメンバーが自由に「よし、やろう!!」と熱くなり、本音で語り合い活気ある部会を目指し、会員の増強にも取り組んでいきたいと思います。

◎環境部会

課題②③⑤⑧

１．環境経営について会（会員）にひろげるため、経営指針づくりの卒業生による実践発表を計画しましたが、発表者目標１０名に対して報告いただけたのは３名でした。依頼した方の多くが「実践していないので報告できない」というもので、理念の中での位置づけの低さが浮き彫りになりました。

企業の基礎がしっかりしていないと新たな展開に進めません。①理念（理念の中に環境が明記されているか）②三位一体の経営（人の重要性が具体化されているか）③労使見解（人を生かす経営の実践力が省エネ・新しい仕事づくりに必要）の大切さと実践できているかということです。部会だけでなく、会全体として追求していくべき課題です。

２．環境ビジネスやエネルギーシフトについては、２か所の見学会を実施しました。

「南砺市エコビレッジ構想」→地域の中小企業と行政の連携による取り組みは、身近で各地域でも参考になると感じました。

「ＹＫＫパッシブタウン」　→未来への可能性を探る意味ではハイレベルな取り組みでしたが、費用面では中小企業には難しい内容だと感じました。

見て・聞いて・触れての見学学習会を通して、中小企業の身の丈になったビネスモデル創造の難しさを実感しました。しかし、大きな情勢変化に対応して自社を継続発展させていくためにも、何ができるかを考えていく必要があります。

◎青年部会　年度テーマ『経営を語り合い、互いに発展できる青年部になる』

課題①③④⑤⑦

・成果は、会員同士の個人的な交流という部分では、親睦が深まったと感じています。

・課題は、会員同士の経営の学び合いを通じ、実践を促す活動はできませんでした。活動計画を作っていく初段階で、会員を巻き込み組織が一体となって、会員の抱える経営課題が少しでも克服できる方針や計画に取り組むことが必要です。

◎女性部会　部会テーマ「きらめく女性の輪をひろげ、元気な地域づくりをめざそう！」

課題①②③　活動内容・グループ討論の充実（よい会社をつくろう）

例会運営に当たっては、女全交分科会の流れを意識し、報告者・座長・室長を含めた事前打ち合わせ及びグループ長ミーティングを実施し充実したグループ討論を目指しました。女性部会の誰もがグループ長になれるよう、新人会員がグループ長の場合、補佐としてベテラン会員を同じグループにするなど、みんなで助け合い、一緒にいい例会をつくるという精神を大切にしました。

課題④⑤⑥　会員同士の絆を強める、学びの機会を増やす（よい経営者になろう）

支部例会などの同友会活動や全国交流会への参加は、女性部会以外の会員にも幅広く参加を呼びかけました。女性・男性というくくりを超え、多くの方に全国交流会を経験して頂くことができました。

課題⑦⑧⑨　情報発信強化、仲間づくり（よい経営環境をつくろう）

フェイスブック及び富山同友会ホームページの活用については、情報発信の点でまだまだ不十分でした。情報を「見る・読む」という点では、女性部会内で利用者が増えたことはひとつの成果です。今後も活用し続けることが大切だと思います。

中堅社員フォローアップ研修会

課題⑩　独自の取組み

報告内容は、苦難を何度となく乗り越え次の世代へ継承、地域とのかかわり。経営理念や経営指針の取り組みをへて経営者・社員さんの変化、夢見る会社へ。地域・行政一体となって婚活から新たな地域づくりなど、さまざまな視点で学べたと思います。同じことの繰り返しでも、どれだけ続けられるか？続けるための準備（学び）をどれだけ出来るか？どれだけ準備（学び）するかで本番（未来）は決まり、多くの準備（学び）は、本番（未来）に繋がり、決して裏切らないと思いました。

◎Ｆ．Ｐ．部会

課題⑤⑦⑧

昨年度より、富山商業高校のキャリアガイダンスを２学年の早い時期に変更しました。これは、就職か進学かを間近にした子供たちへの授業より、少しでも早い時期に人生の目的や働くことについて考えるきっかけを作りたかったからです。富商の先生方と議論を深めてきたうえでの結論ですが、授業を担当する会員報告者の負担が大きくなりました。働くことが身近ではない２年生に一石を投じる役割は大変ですが、子供達のキャリア育成に大きな変化が期待できると確信しています。

さらに、学校（校長、担当教員）からの期待度も年々高まってきており、TOMI SHOP（富山商業高校模擬株式会社）の外部顧問としての役割では、販売実習の本番前や株主総会時に全校生徒に向けての気付きの会（授業）を依頼されるほどになってきました。これは、携わる全教員の意識変革が必要だが学校側にはできないという現状の打破を、私たち企業家に求められている表れだと感じます。

この間、地域から必要とされる実感を持ちながらも、それに答えるだけの同友会側の力量（人員・経験値）不足が否めません。志を同じくし子供達や教師とも寄り添って話ができる仲間づくりが、今後の重要な課題と考えます。

新年度も取り組みは継続しますが、現在は部会長のみで組織として不安定なため、今後は例えば共同求人委員会の一部門として、インターンシップと共に学校とのかかわりづくりや地域を作る取り組みとして位置付けていくよう、働きかけていきたいと考えます。

● 自主的な研究会

◎「未来来ＴＯＹＡＭＡ」（立教大学経済学部　山口義行教授を囲む勉強会）

17年目に入り、山口教授がお元気な限り継続する決意です。あと２年あまりの20周年記念大会では、参加企業の優れた自社変革の発表ができるよう、気合いを入れて行きたいと思います。

毎回、先生からは、日本経済政治の現状・この先・中小企業に対する政府の考え方・実績をあげている中小企業の事例など、たくさんのことを学びます。参加企業の発表からも、自社の改善の提案を得ることができます。これらをただ聴くのではなく、即刻実践に移して行く会です。毎回たくさんのヒントがあり、今の「ぬるま湯の経済状態」もよくわかります。なんとなくゆったりしていると、ゆで蛙になって死んでしまいます。

2017年は、いよいよ日本経済も明らかな悪化の方向です。国債を大きく買い続けている日銀黒田総裁の曖昧な発言、今春からのテーパリング（金融政策において、量的金融緩和の縮小）、そして金利上昇、不動産の在庫過多、金融の危機・崩壊と進む様子がわかります。為替と株価だけ見て、まだまだ浮いた話をする経営者や金融機関も多くいます。我々は、先生の勉強会とスモールサンニュース・ネットラジオ等を活用し、最新の正しい情報を掴み事に当たりたいと考えます。正しい情報と考え方・決断が、益々大切な時代です。

◎「戦略的経営塾」

取り組み内容を刷新して２年目ですが、自らがケーススタディとなり、塾生が社外取締役という位置づけでモデル企業の経営戦略に参画しました。

仮説を立て現状とのギャップを、戦略的にどのようにつぶしていくか。戦略的思考は、経営指針の実践にはなくてはならないものです。今年度はこの取り組みをさらに加速させ、塾生同士本気の関わり合いの中からの学びを、自社に置き換え実践し結果を出す研究会にします。

● 会の発展にふさわしい事務局づくり

活動が質・量とも増加するなかで、事務局が本来やるべき仕事、取り組みたい事を整理し、会員との役割分担をどう進めるかについて初めて理事会で取り上げましたが、事務局に何を求めるかは、役員によって様々です。事務局方針の成文化にむけて第１案を作成しましたが、局内でさらに議論を深めて同友会が掲げる課題と局員一人ひとりの思いとを擦り合わせると同時に、役員・会員の方々とも「事務局に求めるもの、あるべき姿」について引き続き話し合い、業務の質向上と効率化、労働環境改善に、具体性をもって取り組んでいく必要があります。

〔４〕企業の展望を確かにする全国行事を振り返って

【参加状況】

全国総会／大阪（19名）、青年経営者全国交流会／石川（34名）、全国研究集会／鹿児島（15名）、女性経営者全国交流会／旭川（34名）、人を生かす経営全国交流会／千葉（13名）、組織強化・広報・情報化全国交流会／東京（13名）、中小企業憲章キックオフ集会／東京（1名）、中日本ブロック代表者会議／福井（4名）、その他専門委員会・中同協会議など（42名）

【中同協行事及び他県同友会などへの派遣報告者と派遣先（五十音順、敬称略）】

小柴順子（旭川：女全交分科会、長野：支部例会、愛知：女性部例会、石川：支部例会
小柴雅信（岐阜：フォーラム分科会）

おわりに

第６次中期ビジョン４年目となるこの一年は、様々な活動に取り組むなかで「学ぶだけでなく実践しているのか？」を検証すべき年でした。次年度は、最終年として「生きる、暮らしを守る、人間らしく生きる」を活動と経営の中でいかに実践して成果につなげているのか？が問われます。

新年度に向けても、引き続き会員同士のつながりを深め、強靱な経営体質をつくる活動を充実させ、「企業づくり」「人づくり」「地域づくり」に向けて共に挑戦し続けましょう。

南砺市エコビレッジ見学会

第６次中期ビジョン　2015 年度調査結果報告書

表の見方

回答・集計方法　設問①③⑥＝2016年5月会員アンケートの回答集計（回答数176社 支部別会員数合計528社　回答率33.3%）

設問②④⑤⑦⑧⑨＝当該年度6月1日時点集計

注1：設問③　黒字企業149社/アンケート回答数176社*100=84.7%

注2：設問④　2015年度活動参加者366名/支部別会員数合計528*100=69.3%　※会議を除く2015年度の全活動を対象

	チェック項目	調査方法等	単位	2013年度 2013.04.01～2014.03.31	2014年度 2014.04.01～2015.03.31	2015年度 2015.04.01～2016.03.31	ビジョン最終年の目標	備考
①	**経営指針（理念・方針・計画）の実践数**	企業変革支援プログラム方式で0～5のレベル数値を調査	レベル	2.24	2.23	2.30	3	アンケート調査 平均値
②	**会員企業における雇用者総数（雇用率）**	正規・非正規社員の合計数を調査	名	14,672 （4.75%）	14,163 （4.59%）	13,602 （4.41%）	21,000	最終年目標は富山県の雇用者総数の7%に相当
③	**黒字企業数（営業利益）**	単年度営業利益「黒字or赤字」を調査	%	80.1	81.0 ※注1	84.7 ※注1	80	アンケート調査 回答割合
④	**全ての活動への参加者数**	全ての活動に年間1回以上参加した会員割合を調査	%	59.6	63.9 ※注2	69.3 ※注2	80	対会員割合
⑤	**報告者数（達成率）**	年間活動計画の全てを報告機会とし、報告者数を調査	名	68 （27.2%）	110 （44.0%）	150 （60.0%）	250	複数回報告も1回と換算 積み上げ加算方式
⑥	**自社の中期ビジョンの成文化**	企業変革支援プログラム方式で0～5のレベル数値を調査	レベル	1.93	2.20	2.23	2.5	アンケート調査 平均値
⑦	**会員数**	各支部会員数を合算（当該年度6／1時点）	名	527	537	528	750	最終年目標は各支部目標を合算。各市町村別の会員組織率で平均5%をめざす
⑧	**新しい仕事プロジェクト参加会員数**	新産業創造部会、環境部会、障害者問題部会に登録している会員数を調査	名	79	94	102	増やす	各支部のビジネス交流会等の参加会員数も加算
⑨	**市町村での条例制定数**	県下15市町村を対象に、中小企業振興基本条例の制定数を調査	市町村	0	1	2	6	同友会が積極的に関わる ※2015年南砺市制定 ※2016年高岡市制定

2016年度活動日誌(2016.4.1～2017.3.31)

開始日	活動名	タイトル	報告者	参加者/	ゲスト
全国・中日本ブロック行事等					
2016/06/01	中同協青年部連絡会(東京)			1	
2016/06/07	中同協中小企業憲章・条例推進キックオフ集会(東京)			2	
2016/06/08	中同協第5回幹事会			2	
2016/06/16 -17	第19回女性経営者全国交流会(旭川)ー泊	「いのちの輝きはぐくむ平和な社会を生活者の視点で未来へつなぐ仕事づくりを！」		34	
2016/06/23 -24	中日本ブロック代表者会議(福井)ー泊			4	
2016/07/14 -15	中同協第48回定時総会(大阪)ー泊	「同友会理念の実践で、人が輝く持続可能な社会へ」		19	
2016/08/25 -26	組織強化・広報・情報化全国交流会(東京)ー泊			13	
2016/09/06	中同協女性部連絡会			4	
2016/09/08 -09	中同協第2回共同求人・社員教育合同委員会(東京)ー泊			2	
2016/09/08	中同協第1回経営労働委員会(東京)			1	
2016/09/15 -16	第44回青年経営者全国交流会(石川)	「つどえ傾奇者！歴史は一歩一歩に新たなる創造である」		34	
2016/10/06	中日本ブロック事務局長会議(富山)			1	
2016/10/07 -08	中日本ブロック事務局研修会(富山)ー泊			4	
2016/11/09	中同協政策委員会・憲章・条例推進本部会議(東京)			1	
2016/11/11	中同協第2回幹事会(東京)			2	
2016/11/17 -18	第5回人を生かす経営全国交流会(千葉)ー泊			13	
2016/11/18	中同協共同求人担当事務局研修会(千葉)			1	
2016/12/08 -09	全国事務局長会議(京都)ー泊			1	
2017/01/13	中同協第3回(新春)幹事会(東京)			3	
2017/01/20	第2回中同協共同求人委員会			4	
2017/02/07	中同協社員教育委員会			1	
2017/02/09	中同協経営労働委員会			1	
2017/02/16 -17	第47回中小企業問題全国研究集会(鹿児島)ー泊			15	
2017/03/02	中同協女性部連絡会(大阪)			4	
2017/03/03 -04	中日本ブロック事務局長会議(愛知)ー泊			1	
2017/03/10	中同協第4回幹事会(東京)			2	
2017/03/22	中同協政策委員会			1	
全県行事					
2016/04/23	第37回定時総会　総会の部			114	1
2016/04/23	第37回定時総会　パネルディスカッションの部	「私たちは地域を創る企業家になる！」	中島　勝喜・島　幸美・福野　均会員	117	1
2016/04/23	第37回定時総会　懇親会の部			94	1
2016/11/15	第27回経営研究フォーラム　第1分科会	「経営指針が伝統"安田瓦"に新しい輝きを生む！」 丸三安田瓦工業㈱　代表取締役副社長	遠藤　秋子氏	41	1
2016/11/15	第27回経営研究フォーラム　第2分科会	「城端絹を世界に　六代目見習いの挑戦」 ㈱松井機業　6代目見習い	松井　紀子氏	27	1
2016/11/15	第27回経営研究フォーラム　第3分科会	「いっぱいしくじり、ちょっぴり成功　新卒採用＋共育＝〇〇」	中島　勝喜会員	20	
2016/11/15	第27回経営研究フォーラム　第4分科会	「踏み出そう！より良い会社への第一歩」 トマル電気工業㈱　代表取締役	都丸　亮一氏	29	1
2016/11/15	第27回経営研究フォーラム　第5分科会	「庄川温泉郷に新たな活気が蘇った！」	坂井　彦就会員	37	
2016/11/15	第27回経営研究フォーラム　記念講演	「"人を生かす経営"の実践が企業と地域の未来を開く」 ㈱ヒューマンライフ　代表取締役	中山　英敬氏	166	1
2017/02/04	新春のつどい	「育んできた"つぼみ"を今こそ咲かせよう！」		213	3
城南支部					
2016/04/02	全体会	「自社の経営に生かせる学びをし、そして動く！」		27	
2016/04/18	よい経営環境をつくろうG会①	役員会＋企業訪問　十全美装㈱		6	
2016/05/11	よい会社をつくろうG会①	「ES・CSに関する実践事例の紹介」		12	
2016/05/23	よい経営環境をつくろうG会②	「自社ブランドの確立により、スモールテリトリーでビックシェアを！！」 ㈱ミヤモト家具 代表取締役	宮本　豊彰氏	20	1
2016/05/25	経営理念塾　第1講			31	
2016/06/24	6月例会	「あなたにとって"かけがえのないもの"はなんですか??」	澤田　慎之介・折橋　由紀会員	36	2
2016/06/29	経営理念塾　第2講			12	
2016/07/03	第4回ディスカバリー杯ゴルフコンペ			8	
2016/07/13	よい会社をつくろうG会②	「ES・CSに関する実践事例の紹介」	坂井　彦就会員	12	1
2016/07/23	経営理念塾　第3講			9	
2016/08/20	BBQ大会			14	
2016/08/27	経営理念塾　第4講			6	
2016/09/23	フォーラム分科会リハーサル	「庄川温泉郷に新たな活気が蘇った！」	坂井　彦就会員	6	
2016/09/26	よい経営環境をつくろうG会③	「放牧豚のパイオニア富山から世界へ！！」 悠牧豚㈱ 代表取締役	川瀬　悠氏	15	1
2016/10/11	10月例会	「本気の社員教育、本当の社員満足とは」 ｶﾜﾓﾄ・ﾏﾆｭﾌｧｸﾁｭｱﾘﾝｸﾞ㈱　代表取締役	中野　幹生氏	50	5
2016/10/19	優れた経営者になろうG会①	「もう一度学ぶ会計書類の読みかた①」	佐伯　健一会員	10	
2016/11/09	よい会社をつくろうG会③	「あなたが目指す社風を語り合おう」		9	
2016/11/17	優れた経営者になろうG会②	「もう一度学ぶ会計書類の読みかた②」	佐伯　健一会員	12	
2016/11/18	同友会をちょっと知る会			9	1
2016/12/01	望年会			20	
2017/02/20	2月例会	「情熱と覚悟はあなたにあるのか！！」	新村　博明会員	35	1
2017/03/04	同友会をちょっと知る会			10	1
2017/03/08	よい会社をつくろうG会④	「G会からの出会いと学び」	山谷　淳一会員	8	
城北支部					
2016/04/15	同友会を活かす会			26	4
2016/05/17	雑学探求会	「目からウロコ！PC操作　時間短縮術」	谷井　太会員	18	
2016/05/20	全体会	「仲間の夢を応援しあう、日本一つながりの強い支部を目指します」		36	
2016/05/25	経営理念塾　第1講			31	
2016/06/29	経営理念塾　第2講			19	
2016/07/23	経営理念塾　第3講			14	
2016/08/10	同友会を知る会			22	2
2016/08/10	夏の親睦会			33	2
2016/08/27	経営理念塾　第4講			16	
2016/10/12	雑学探求会	「あなたの知らない世界～行政書士編～」	久郷　厳会員	14	
2016/10/20	10月例会	「みんなで作る理想の会社って？」	田村　彰英会員	38	1
2016/11/22	同友会を知る会			16	3
2016/12/20	望年会			32	
2017/03/01	3月オープン例会	「自発的に行動しないのは、社員のせいじゃない！」	近江　清会員	43	3
2017/03/27	同友会を知る会			27	7

新川支部					
2016/04/05	幹事研修会	「来てよかった・楽しいと実感できる新川支部を！」		19	
2016/05/12	全体会	「来てよかった・楽しいと実感できる新川支部を！」		29	
2016/05/26	指針入門①			13	
2016/06/20	商倍交流会①			26	5
2016/06/21	指針入門②			13	1
2016/06/28	滑川グループ会①	「滑川市観光について滑川市と意見交換会」滑川市商工水産課 課長	網谷 卓郎氏	8	1
2016/07/26	7月例会	「経営環境の変化はチャンスの到来」 中小企業家同友会全国協議会 専務幹事	松井 清充氏	48	2
2016/07/31	BBQ大会			12	1
2016/08/22	商倍交流会②			19	4
2016/08/25	指針入門③			8	
2016/09/27	9月例会	「これでいいのか自社！～青年経営者は地域を拓く『導火線』！～」 ㈲おかもと 取締役 戸村尚 脇本 恭成・潟沼 秀憲会員		55	16
2016/09/29	指針入門④			13	
2016/10/13	ゲストフォロー訪問			3	
2016/10/25	同友会を知る会			10	4
2016/10/27	指針入門⑤			15	
2016/11/22	滑川グループ会②	「ゼロ金利対策について」 にいかわ信用金庫 支店長	吉森 幸善氏	9	1
2016/11/29	指針入門フォロー①			12	
2016/12/05	新会員歓迎会＆望年会			31	3
2016/12/14	クリスマス会			14	
2017/01/26	指針入門フォロー②			13	
2017/02/21	指針入門フォロー③			10	
2017/02/24	2月例会	「夢を形に～銘板技術でアートする！！」	西島 ことぎ会員	34	1
2017/03/06	商倍交流会③			8	
2017/03/13	オリエンテーション＆同友会を知る会			12	2
2017/03/24	全体会	「本当の支部活動とはどうあるべきかを追求し、模範となる支部を目指そう」		36	1
呉西支部					
2016/04/15	高岡西・東地区合同地区会①	「顔合わせ懇親会」		16	
2016/05/11	全体会	「仲間の輪を広げ、活発な地域作りをしよう！」		55	1
2016/05/16	増員推進委員会①	「顔合わせ会」		15	
2016/05/19	氷見地区会①	「顔合わせ懇親会」		9	
2016/05/19	射水地区会①	「顔合わせ懇親会」		11	
2016/05/23	経営委員会	「経営理念塾 オリエンテーション」		11	
2016/06/13	新会員フォロー委員会	「同期会」		3	
2016/06/25	経営委員会	「経営理念塾 第1講」		14	
2016/06/26	交流委員会	「第8回ゴルフコンペ」		24	
2016/06/30	6月例会	「私の社長日記～理想の社長に近づくために～」	澤川 幸利会員	58	13
2016/07/13	増員推進委員会②	「同友会を知る会①」	西森 祐一会員	25	7
2016/07/23	経営委員会	「経営理念塾 第2講」		16	
2016/07/25	経営委員会	「経営理念塾 第2講補講」		7	
2016/07/29	経営委員会	「経営理念塾 第2講補講」		6	
2016/08/10	氷見地区会②			7	
2016/08/18	氷見地区会③	「同友会を知る会①」	東 秀佳会員	13	4
2016/08/19	射水地区会②	「同友会を知る会①」	伊藤 孝志会員	28	13
2016/08/19	高岡西・東地区合同地区会②	「経営環境レポートの発表と意見交換会」	宮谷 寛・筏井 秀樹・浅井 千春・野嶽 昌士会員	24	5
2016/08/23	経営委員会	「経営理念塾 第3講」		12	
2016/09/05	新会員フォロー委員会	「新会員さん歓迎会」		16	1
2016/09/06	経営委員会	「経営理念塾 第3講補講」		9	
2016/09/20	9月オープン例会	「新卒採用が社長を変え会社を変える」	坂井 彦就会員	57	11
2016/09/24	経営委員会	「経営理念塾 第4講」		11	
2016/10/14	射水地区会③	「同友会を知る会②」		9	1
2016/11/18	高岡西・東地区合同地区会③	「同友会を知る会①」	塚本 和勝会員	18	1
2016/11/22	射水地区・会員活性化委員会合同	「経営環境レポートの発表と意見交換会」	八嶋 祐太郎・徳永 勝久会員	20	
2016/12/14	射水地区会④	「同友会を知る会③」		10	2
2016/12/15	望年会			45	
2017/01/16	氷見地区会④	「新年顔合わせ会懇親会」		6	
2017/01/19	高岡西・東地区合同地区会④	「経営環境レポートの発表と意見交換会」	竹内 正明・山辺 雅英会員	24	3
2017/03/15	高岡西・東地区合同地区会⑤	「同友会を知る会②」		23	5
2017/03/24	氷見地区会⑤			8	
2017/03/28	射水地区会⑤	「経営環境レポート発表と意見交換会」	竹内 秀樹・中村 長治会員	16	
となみ野支部					
2016/04/07	全体会	「会員間の連携を深め、地域と共に未来を変える」		21	
2016/04/27	ビジネス交流委員会	総会		15	
2016/05/25	ビジネス交流委員会①	富山県よろず支援拠点 コーディネーター	羽田野 正博・大野 正晴氏	16	4
2016/05/31	5月例会	「「本気モード」スイッチオン～経営理念が経営者の生き様を変えた～」	黒田 保光会員	33	2
2016/06/22	ビジネス交流委員会②	「㈱高瀬金型 会社見学会」		5	
2016/06/28	新会員オリエンテーション			10	
2016/06/30	経営指針セミナー 第1講			12	
2016/07/13	社外重役会議	「経営環境レポートの発表と意見交換会」	山田 貢・四柳 毅会員	2	
2016/07/27	ビジネス交流委員会③	「補助金、助成金検証セミナー」 富山県よろず支援拠点 コーディネーター	布目 大剛氏	13	3
2016/07/28	経営指針セミナー 第2講			13	
2016/08/29	ビジネス交流委員会④・社外重役会議	「㈱松井機業企業訪問」 ㈱松井機業 6代目見習い	松井 紀子氏	11	1
2016/08/31	経営指針セミナー 第3講			14	
2016/09/22	創立10周年記念例会	「輝く人・企業・地域を目指そう！」	黒田 文彦・近江 清・服部 和久会員	65	
2016/09/28	ビジネス交流委員会⑤	同友フェスタ説明会		22	
2016/11/30	ビジネス交流委員会⑥	「海外視察INフィリピン事前研修会」		11	
2016/12/07	支部&ビジネス交流会合同望年会			18	
2017/01/17	社外重役会議	「人を生かす経営」学習会	近江 清会員	30	3
2017/01/25	ビジネス交流委員会⑦	「海外視察INフィリピン事前研修会」		7	
2017/02/09	ビジネス交流委員会⑧	「第4回海外視察inフィリピン」		11	
2017/03/03	3月オープン例会	「5代目承継の奮闘記～新しい価値の創造へ挑戦～」 ㈱辻鉄 取締役部長	辻 明良氏	60	20
2017/03/22	ビジネス交流委員会⑨			6	
総務委員会					
2016/04/11	2015年度会計監査			6	
2016/07/20	同友会研修会	「ふりかえれば未来！」	生駒 晴俊・桑山 好鷹会員、山崎 典子氏	51	
2016/09/08	グループ長研修会①	「質の高いグループ討論を実現するために！」		23	
2016/10/13	グループ長研修会②	「質の高いグループ討論を実現するために！」		34	
2017/03/11 -12	同友会活用塾	「地域をつくる企業家になるには？」 中小企業家同友会全国協議会 専務幹事	松井 清充氏	31	1

仲間づくり協議会					
2016/04/19	協議会⑬新旧			11	
2016/05/24	協議会①			18	
2016/06/28	協議会②			14	
2016/07/26	協議会③			16	
2016/08/23	協議会④			15	
2016/09/27	協議会⑤			17	
2016/10/25	協議会⑥			13	
2016/11/22	協議会⑦			15	
2016/12/20	協議会⑧			13	
2017/01/24	協議会⑨			13	
2017/02/28	協議会⑩			10	
2017/03/28	協議会⑪			15	
政策委員会					
2016/04/21	ハッピー上市㉘			13	3
2016/05/19	ハッピー上市㉙			15	4
2016/06/23	ハッピー上市㉚			16	1
2016/07/21	ハッピー上市㉛	「上市町の特産品の発信についての現状と課題」 上市町雇用創造協議会 事業統括責任者	茶木 勝氏	15	1
2016/08/25	ハッピー上市㉜			11	
2016/08/30	地域活性化セミナー	「あなたが主役の地域再生」 京都大学大学院経済学研究科 教授	岡田 知弘氏	115	4
2016/09/12	ハッピー上市㉝			13	
2016/10/20	ハッピー上市㉞			11	
2016/10/21	金融庁との懇談会			1	
2016/11/17	ハッピー上市㉟			15	
2016/12/15	ハッピー上市㊱	「大岩の現状と課題について」旅館だんごや 若女将	滝川 佐季子氏	15	3
2017/01/19	ハッピー上市㊲			18	
2017/02/16	ハッピー上市㊳			13	
2017/03/27	ハッピー上市㊴			7	
情報化推進本部					
2016/05/17	本部会議①			7	
2016/06/20	本部会議②			11	
2016/07/19	本部会議③			8	
2016/08/22	本部会議④			12	
2016/09/20	本部会議⑤			10	
2016/10/25	本部会議⑥			11	
2016/11/21	本部会議⑦			4	
2016/12/19	本部会議⑧			14	
2016/12/19	望年会			12	
2016/12/27	本部会議⑨			4	
2017/01/18	本部会議⑩			8	
2017/02/27	本部会議⑪			10	
2017/03/22	本部会議⑫			10	
2016/08/09	「実践」交流会			9	
経営労働委員会					
2016/09/21	第22期経営指針を創る会 オリエンテーション			27	
2016/10/15 -16	第22期経営指針を創る会 第1講			51	1
2016/11/19 -20	第22期経営指針を創る会 第2講			44	
2016/12/17 -18	第22期経営指針を創る会 第3講			46	
2016/12/21	第22期経営指針を創る会 第2講補講			13	
2017/01/21 -22	第22期経営指針を創る会 第4講			44	
2017/02/18 -19	第22期経営指針を創る会 第5講			45	
共同求人委員会					
2016/04/23	学内企業説明会	「金沢学院大学学内企業説明会」		11	
2016/05/27	県内学校との意見交換会	「2017年3月卒の採用・就職活動について」		13	6
2016/06/15	北海道求人委員会との意見交換会	富山9名 北海道13名		9	
2016/06/29	合同企業説明会③			38	
2016/07/02	学内企業説明会	「金沢工業大学学内企業説明会」		12	
2016/07/09	学内企業説明会	「富山短期大学学内企業説明会」		19	
2016/07/20	合同企業説明会④			32	
2016/07/21	参加企業会議	「2017年3月卒 採用活動の現状と今後の対応」	辻 素樹氏	19	
2016/08/10	合同企業説明会⑤			31	
2016/09/17	学内企業説明会	「富山大学学内企業説明会」		8	
2016/10/17	産学懇談会	「就職・採用活動3ヶ年の変遷と今後の検討」	辻 素樹氏	53	7
2016/11/28	第33回総会			34	
2016/12/09	望年会			10	
2017/02/02	全体会			47	
2017/03/06	合同企業説明会①			37	
2017/03/13	合同企業説明会②			39	
2017/03/30	2017年度合同入社式	企業31社 参加者59名 企業側49名 「ぼくが映画監督になるまで」 映画「真白の恋」監督	坂本 欣弘氏	108	1
2017/03/30 -31	2017年度新入社員研修会（一泊）	企業32社 参加者62名 企業側39名 「感謝できる人になろう」「感謝される人になろう」		101	
共育委員会					
2016/05/13	中堅社員フォローアップ研修会	受講生15名 企業12社		30	
2016/06/03	チャレンジリーダー研修①	「THE商社」 ㈱プロジェクトデザイン 代表取締役	福井 信英氏	34	1
2016/07/01	チャレンジリーダー研修②	「THE商社」 ㈱プロジェクトデザイン 代表取締役	福井 信英氏	38	1
2016/07/22 -23	フレッシュマンフォローアップ研修会①	山本勝貴・池田明恵さん、	境井 智子・沖田 孝之会員	85	
2016/08/23	経営者大学15期 第1講	「行動を導く-脳の認知と行動分析」 富山大学 人間発達科学部 准教授	福島 洋樹氏	17	1
2016/09/09	経営者大学15期 第2講	「アカデミック・デザインの挑戦」 富山大学人文学部 教授	小助川 貞次氏	14	1
2016/09/09	出張お出かけ委員会①	「我が社の採用と教育～取り組みと課題は？」	中西 栄二会員	10	
2016/09/23	経営者大学15期 第3講	「日本語レベルアップで社員が成長」 アップコン㈱ 代表取締役	松藤 展和氏	15	1
2016/10/06	経営者大学15期 第4講	「ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝで新ビジネスを身近に」 富山大学 研究推進機構産学連携推進ｾﾝﾀｰ 特命教授	千田 晋氏	16	1
2016/10/18	フレッシュマン・チャレンジリーダー合同フォローアップ研修			84	
2016/10/26	経営者大学15期 第5講	「価値づくりの経営」 富山大学経済学部 教授	内田 康郎氏	13	1
2016/11/14	出張お出かけ委員会②	「我が社の採用と共育～取り組みと課題は？」	三箇 俊臣会員	8	
2016/12/09	望年会			13	2
2017/02/10 -11	中堅社員研修（一泊）	受講生24名 企業16社		50	

新しい仕事づくり協議会					
2016/04/06	協議会①			10	
2016/05/09	協議会②			10	
2016/06/06	協議会③			7	
2016/06/06	同友フェスタ	参加企業説明会		22	
2016/07/22	同友フェスタ	事前説明会（富山地区）		22	
2016/09/01	同友フェスタ	実行委員会		10	
2016/09/26	同友フェスタ	事前説明会（富山地区・新川地区）		24	
2016/10/29	同友フェスタ2016	「輝け！地域を創る中小企業！」		800	
2017/03/07	同友フェスタ	実行委員会		8	
新産業創造部会					
2016/06/10	総会			12	
2017/02/23	全体会			10	
障害者問題部会					
2016/05/27	支援学校の先生方との意見交換会	学校24名　部会27名		52	11
2016/06/21	見学会	「富山県立富山高等支援学校見学会」		18	6
2016/11/25	支援学校の先生方との意見交換会	学校16名　部会15名		31	3
2017/02/23	見学会	「富山県立高岡聴覚総合支援学校見学会」		7	3
2017/03/02	第6回東日本地区障害者問題交流会（栃木）一泊			3	
環境部会					
2016/06/20	部会	「我が社の環境経営～実践報告」	中谷　尚義会員	8	
2016/08/22	部会	「我が社の環境経営～実践報告」	浜松　都子・木原　正進会員	7	
2016/09/20	南砺市エコビレッジ見学会	「地域資源の循環と交流で、地域の自立を目指す！」		19	
2016/10/20	YKKパッシブタウン見学会	「水・緑・あいの風(季節風)を活かした、自然とともに暮らす『まち』」		12	
2017/02/06	エネルギーシフト学習会	「多くの会員企業が連携して、富山の気候風土に適したゼロエネルギーハウスZEHを一緒につくりませんか！」	林　茂会員	17	
2017/03/23	ゼロエネルギーハウス実践セミナー	「地域でつくるゼロエネルギーハウス」　㈱中村勉総合計画事務所　代表取締役/建築家	中村　勉氏	34	
女性部会					
2016/04/11	第30回総会　総会の部	「きらめく女性の輪をひろげ、元気な地域づくりをめざそう」		41	2
2016/04/11	第30回総会　プレ例会の部	「突然の社長就任～社員とともに乗り越えられない試練はない！」	小柴　順子会員	62	11
2016/05/16	学習会①	「社員のおかげで、夢がふくらむ！かたちになる！」	西島　ことぎ会員	31	1
2016/05/18	旭川女全交リハーサル例会	「突然の社長就任～社員とともに 乗り越えられない試練はない！」	小柴　順子会員	22	
2016/06/27	新会員さん歓迎会＆懇親会			18	
2016/08/29	8月例会	「創業者から私へ、そして次世代に繋ぐために」	加納　朱美会員	37	1
2016/12/02	学習会②	「社員の幸せを願うことで、地域づくりのお手伝いに！」	山田　由理枝会員	28	3
2016/12/02	望年会			21	
青年部会					
2016/05/07	第22回総会			17	1
2016/08/24	交流会			15	1
2016/10/26	ミニプレゼン会①		寺下　広平会員	5	
2016/11/24	ミニプレゼン会②		中田　雄大会員	5	
2016/12/10	望年会			8	
F. P. 部会					
5月・7月・9月に富山商業高校2年生（7クラス）を対象に各1時間の授業を担当。さらに同校模擬株式会社TOMISHOPの支援を行う。				17	1
理事会・三役会等					
2016/04/12	常任理事会⑫新旧			12	
2016/04/19	理事会⑫新旧			35	
2016/05/10	常任理事会①			14	
2016/05/24	理事会①			35	
2016/06/14	常任理事会②			17	
2016/06/21	三役会①			7	
2016/06/28	理事会②			33	
2016/07/12	常任理事会③			10	
2016/07/26	理事会③			33	
2016/07/30	三役会②			4	
2016/08/09	常任理事会④			15	
2016/08/23	理事会④			31	
2016/09/13	常任理事会⑤			13	
2016/09/13	三役会③			4	
2016/09/27	理事会⑤			34	
2016/10/01	三役会④			6	
2016/10/11	常任理事会⑥			16	
2016/10/19	富山県商工労働部との懇談会			13	
2016/10/19	報道機関との懇談会			14	
2016/10/21	第7次中期ビジョン①			9	
2016/10/25	理事会⑥			28	
2016/11/08	常任理事会⑦			13	
2016/11/22	理事会⑦			31	
2016/11/22	三役会⑤			5	
2016/11/25	第7次中期ビジョン②			8	
2016/12/13	常任理事会⑧			16	
2016/12/20	理事会⑧			26	
2016/12/20	役員選考委員会①			7	
2017/01/10	常任理事会⑨			13	
2017/01/10	議案起草委員会①			6	
2017/01/19	役員選考委員会②			6	
2017/01/24	理事会⑨			32	
2017/01/28	常任理事研修会一泊	「富山同友会の10年後のありたい姿（10年ビジョン）」		16	
2017/02/01	総会運営委員会①			5	
2017/02/07	議案起草委員会②			11	
2017/02/14	常任理事会⑩			13	
2017/02/21	議案起草委員会③			10	
2017/02/22	総会運営委員会②			7	
2017/02/28	理事会⑩			31	
2017/02/28	三役会⑥			6	
2017/03/10	第7次中期ビジョン③			9	
2017/03/14	常任理事会⑪新旧			13	
2017/03/21	総会運営委員会③			7	
2017/03/21	議案起草委員会④			6	
2017/03/28	理事会⑪新旧			38	
2017/03/28	常任理事研修会	「10年ビジョンまとめ会議」		11	

女全交実行委員会					
2016/04/05	女全交実行委員会	正副実行委員長会議①		6	
2016/04/20	女全交実行委員会	参加促進・総務部会②(三役会)		6	
2016/05/10	女全交実行委員会	正副実行委員長会議②		7	
2016/05/19	女全交実行委員会	参加促進・総務部会③(三役会)		6	
2016/05/25	女全交実行委員会	全体会部会①		7	
2016/06/07	女全交実行委員会	正副実行委員長会議③		6	
2016/06/14	女全交実行委員会	参加促進・総務部会④(三役会)		18	
2016/07/05	女全交実行委員会	正副実行委員長会議④		6	
2016/07/12	女全交実行委員会	リーダー会議②		31	
2016/07/19	女全交実行委員会	交流部会①		14	
2016/08/02	女全交実行委員会	正副実行委員長会議⑤		6	
2016/08/03	女全交実行委員会	全体会部会②		12	
2016/08/04	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会①		10	
2016/08/09	女全交実行委員会	交流部会　懇親会担当ホテルとの打ち合わせ		7	
2016/08/19	女全交実行委員会	正副実行委員長会議⑥　坂東さんとの打合せ		9	1
2016/08/24	女全交実行委員会	分科会部会①		8	
2016/08/24	女全交実行委員会	交流部会②		10	
2016/08/30	女全交実行委員会	総務部会①		4	
2016/09/12	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会②		10	
2016/09/13	女全交実行委員会	リーダー会議③		25	
2016/09/13	女全交実行委員会	総務部会②		6	
2016/09/14	女全交実行委員会	全体会部会③		10	
2016/10/03	女全交実行委員会	交流部会③		10	
2016/10/03	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会③		9	
2016/10/04	女全交実行委員会	リーダー会議④		20	
2016/10/05	女全交実行委員会	総務部会③		5	
2016/10/22	女全交実行委員会	交流部会　ｵﾌﾞｼｮﾅﾙﾂｱｰ下見		5	
2016/10/24	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会④		6	
2016/10/31	女全交実行委員会	交流部会④		6	
2016/11/01	女全交実行委員会	リーダー会議⑤		23	
2016/11/04	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会　来賓依頼		6	
2016/11/08	女全交実行委員会	分科会部会②		11	
2016/11/09	女全交実行委員会	総務部会④		8	
2016/11/24	女全交実行委員会	全体会部会④		7	
2016/11/24	女全交実行委員会	交流部会　grava打合せ		4	
2016/11/28	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会⑤		7	
2016/11/29	女全交実行委員会	交流部会⑤		10	
2016/12/06	女全交実行委員会	リーダー会議⑥		21	
2016/12/07	女全交実行委員会	総務部会⑤		5	
2016/12/15	女全交実行委員会	分科会部会③		14	
2016/12/16	女全交実行委員会	分科会部会　第6分科会打合せ		6	2
2016/12/20	女全交実行委員会	正副実行委員長会議⑦		6	
2016/12/26	女全交実行委員会	交流部会⑥		6	
2017/01/05	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会⑥		8	
2017/01/10	女全交実行委員会	リーダー会議⑦		22	
2017/01/11	女全交実行委員会	総務部会⑥		5	
2017/01/18	女全交実行委員会	分科会部会④		14	
2017/01/19	女全交実行委員会	全体会部会⑤		9	
2017/01/30	女全交実行委員会	交流部会⑦		10	
2017/01/31	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会⑦		8	
2017/02/07	女全交実行委員会	リーダー会議⑧		23	
2017/02/08	女全交実行委員会	総務部会⑦		7	
2017/02/15	女全交実行委員会	全体会部会⑥		8	
2017/02/16	女全交実行委員会	分科会部会⑤		12	
2017/02/23	女全交実行委員会	分科会部会　第6分科会打合せ		6	
2017/02/27	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会⑧		8	
2017/02/27	女全交実行委員会	交流部会⑧		7	
2017/03/07	女全交実行委員会	リーダー会議⑨		20	
2017/03/08	女全交実行委員会	総務部会⑧		7	
2017/03/14	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会⑨		5	
2017/03/15	女全交実行委員会	全体会部会⑦		8	
2017/03/15	女全交実行委員会	分科会部会⑥		9	
2017/03/28	女全交実行委員会	正副部会長会議①		12	
2017/03/28	女全交実行委員会	参加促進・広報・歓迎部会「自社にも役立つ！おもてなしエキスパート講座」	紅粉広恵さん・北川浩美会員	41	1
2017/03/29	女全交実行委員会	交流部会⑨		10	

全県活動　実行委員会			
2016/04/11	フォーラム実行委員会③		6
2016/04/25	フォーラム実行委員会④		6
2016/05/17	フォーラム実行委員会⑤		7
2016/06/08	フォーラム実行委員会⑥		8
2016/07/04	フォーラム記念講演打合せ(福岡)		5
2016/07/07	フォーラム第1分科会打合せ(新潟)		4
2016/07/13	フォーラム実行委員会⑦		7
2016/08/10	フォーラム実行委員会⑧		7
2016/08/19	フォーラム第4分科会打合せ(埼玉)		6
2016/09/01	フォーラム実行委員会⑨		11
2016/09/26	フォーラム実行委員会⑩		6
2016/09/28	フォーラム会場下見		9
2016/10/06	新春のつどい①		5
2016/10/21	フォーラム実行委員会⑪		5
2016/10/24	フォーラム第3分科会打合せ		7
2016/10/25	新春のつどい②		4
2016/10/26	フォーラム第4分科会打合せ		6
2016/11/10	フォーラム実行委員会⑫		10
2016/11/16	新春のつどい③		6
2016/12/12	新春のつどい④		6
2017/01/11	フォーラム反省会		7
2017/01/24	新春のつどい⑤		5
2017/01/31	新春のつどい⑥		11
2017/02/15	新春のつどい⑦	反省会	12

２０１７年度活動方針案

中小企業をめぐる情勢

世界経済

不安定さが強まる世界経済

アメリカのトランプ政権の誕生、イギリスのＥＵ離脱決定などを受け、世界経済の不透明・不安定性が強まりつつあります。アメリカの環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）からの離脱、北米自由貿易協定（ＮＡＦＴＡ）の見直しなど世界的に保護主義化の動きがみられ、さらに中国経済の減速、アメリカ経済の不安定要因、原油価格の下落、欧州経済・政治不安定、中東諸国を巡る混乱テロ問題などのリスク要因が顕在化しています。

2017 年 1 月、ＩＭＦ（国際通貨基金）は最新の世界経済見通しを発表し、世界の経済成長率予測を昨年 10 月発表の 3.4％に据え置きました。しかし、見通しのなかでは、保護主義の広がりによる先行き懸念が根強く指摘されています。米国の政策動向や欧州各国の政治状況が、世界経済の成長を押し下げることになりかねない状況となっています。世界経済の不確実性が高まるなかで、政治、経済ともに様々なリスク要因に一層の注視が必要な 1 年となります。

日本経済、社会の動向と課題

減速が懸念される日本経済

2016 年度の実質国内総生産（ＧＤＰ）成長率は、1.0％前後が見込まれ足踏みが続いています。ＧＤＰの伸びも外需主導で、内需（個人消費・設備投資）は力強さを欠いており、ＩＭＦは 2017 年 0.1％のマイナス成長と予測、2014 年度大企業の経常利益は過去最高を記録するも 2017 年 3 月期は潮目が変わるとみています。一方指標が軒並み悪化の中小企業景気は失速していることが鮮明で、二極化が進んでいます。異次元の金融緩和は輸出企業を中心に大きな利益の一方で、家計や内需型企業には原材料の上昇と圧迫要因になっています。

中同協景況調査報告（DOR）は、「一部で改善するも、中小企業景気の不安定感ぬぐえず」と現状を分析しています。国内経済を支える個人消費が、「賃金の伸び悩み」、「社会保障への信頼不安からくる防衛意識」から家計の財布のひもは固く、消費低迷が景気回復の足かせとなっているとしている状況です。

人口減少・高齢社会と人手不足

2016 年 10 月 26 日に総務省統計局は、2015 年度国勢調査の人口集計結果の確報値を発表しました。それによれば、日本の人口は、2015 年 10 月 1 日時点で 1 億 2709 万 5000 人となり、前回調査の 2010 年と比較して 0.8％（96 万 3000 人）減少となりました。国勢調査で人口減少となったのは、1920 年（大正 9 年）の調査開始以来初めてのことです。同調査によると、男性は 6184 万 2000 人、女性は 6525 万 3000 人と、女性が 341 万 1000 人多い結果になり、65 歳以上人口の割合は前回の 23.0％から 26.6％に上昇し、初めて 4 分の 1 を超えました。

厚生労働省が発表した 11 月の労働経済動向調査によると、正社員が「不足」とした事業所の割合（39％）から「過剰」とした事業所の割合（3％）を差し引いた過不足判断指数（DI）はプラス 36 で、結果を比べることができる 1999 年 2 月調査以降で最高となりました。パート労働者の過不足判断指数も、プラス 33 で過去最高でした 。

また、財務省の「人手不足に関する聞き取り調査」では、「人手不足を感じている」と回答した企業が全体の 63.2％、内訳で見ると、大企業 56.6％、中堅企業 66.3％、中小企業 74.7％ に上り、人手不足の深刻さが、中小企業ほど厳しく増していることが見て取れます 。

人口減少が進むなか、地域に若者を残し、働き育つ場をつくることは中小企業の重要な役割です。学校とも連携しながら、中小企業の魅力や働く喜びを若者に伝える場を設ける必要があります。また高齢者や障がい者など多様な人材が活躍できる企業づくりが求められます。

大きな転換が進む地域金融を巡る動き

日銀のマイナス金利政策は、国内民間金融機関の収益を悪化させています。金融機関が資金調達する際の調達金利がほぼゼロのなかで、金融機関は貸出金利の低下により収益を大きく減少させています。また、運用先としての国債も収益は確保できていません。人口減少、低金利の長期化などにより、2024 年度には約 6 割の地方銀行が本業赤字となる見通しが示されています。

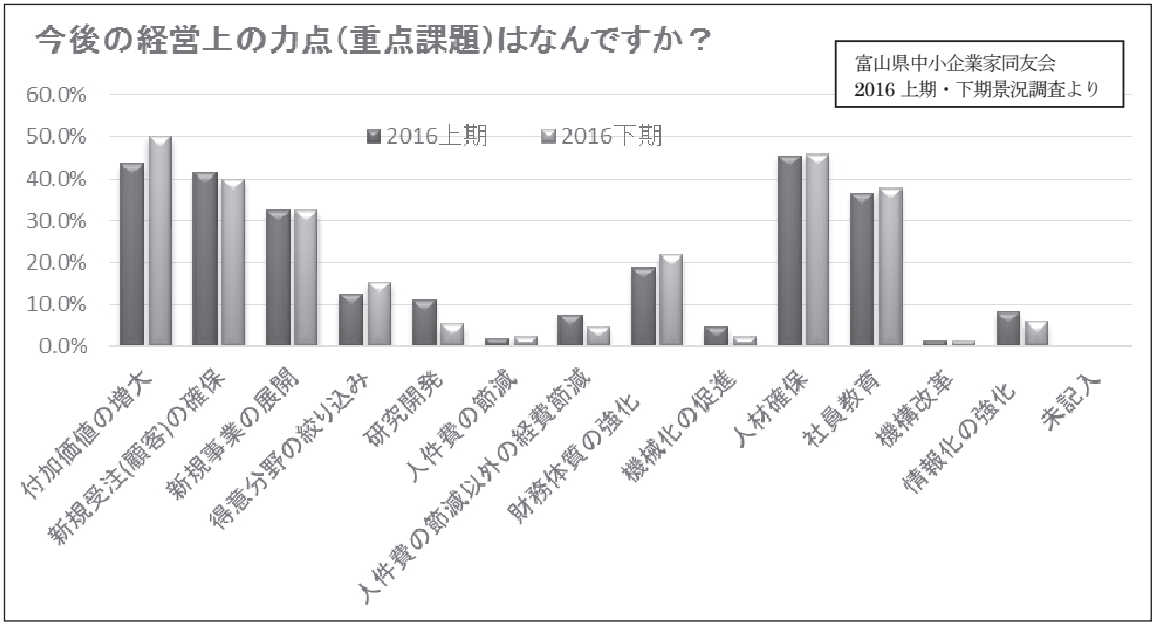
そうした中で、金融庁は「事業性評価」を重視する政策に大きく転換しました。事業性評価とは、「財務データや担保・保証に必要以上に依存することなく、借り手企業の事業の内容や成長可能性などを適切に評価し、融資や助言を行い、企業や産業の成長を支援していくこと」です。金融庁では、地域金融機関の金融仲介能力を客観的に評価するための 55 項目の評価指標「金融仲介機能のベンチマーク 」を策定し、5 つの共通項目については地域金融機関に対して指標の提出を求めるとともに、50 項目の選択項目についても自主的な開示を促すことで、顧客が指標をもとに金融機関を選択できるようにするものです。地域金融機関と中小企業が「深度のある対話」により関係を強化し、それぞれの企業努力と連携によって地域経済を担うことが期待されます。

増える自然災害への対応

日本大震災から 5 年。売上げが震災直前の水準以上まで回復している企業は約 44.8%。人手不足や賃金上昇も深刻です。震災の記憶を風化させず、震災からの教訓を次世代につないでいくことが求められます。地震や噴火、集中豪雨など、国内でも自然災害が多発し、大きな被害を生んでいます。全ての地域が安全ではなく、災害が増え続けるという予想のもと、社内でＢＣＰ（事業継続計画）を策定し、その時に備える必要があります。

ＩＯＴやインダストリー 4.0 などの動向

IOT（Internet of Things）やインダストリー 4.0（ドイツ政府などが推進する情報技術を駆使した製造業の革新）などが注目を集めています。政府は「IOT・ビッグデータ・人工知能による変革は、従来にないスピードとインパクトで進むものと予想される」との認識を示しています。さらに IOT 以外でも、科学技術の進歩を新たな産業・事業の創出につなげようという動きも活発です。それらが人間の生活や産業、各業界にどのような影響を及ぼすのか、今後の動向に注目する必要があります。



２０１７年度活動スローガン（案）

地域の未来づくりへ挑戦！

２０１７年度重点課題（案）

企業と地域のありたい姿を語り合い、行動に移そう

全国の企業数の 99.7％が中小企業であり、就業者の 80％が中小企業で働いています。地方では、更にこの数字は高くなっています。これが、日本経済の実態であり、中小企業の振興こそが日本や地域経済の成長、発展になることは間違いありません。

近年、注目されてきたのは、企業と地域の関係です。企業無くしては、地域内での雇用や税収、地域の文化や伝統の継承がなされないこと。また、地域無くしては、労働力の確保、企業インフラの整備、そして売上高の保証が無いことがはっきりとしてきました。

私たち中小企業家同友会は、強靭で持続可能な「企業づくり」と、物心豊かな「地域づくり」を結びづける「同友会づくり」を中心にして、運動、活動を進めていきます。産学官金民報労（企業・教育・行政・金融・生活者・報道・労働機関）連携で未来の富山・日本を創ってまいりましょう！語り合い、行動に移しましょう！地域は未来の子どもたちからの預かりものなのです。

取り組み課題

①経営指針の実践に踏みだそう

経営指針の確立と実践は同友会運動の重要な柱です。
まずは成文化に取り組み、さらに、全社的実践を強め、強靱な企業をつくります。

②強みを活かし、新たな仕事づくりを

自社の強みを活かして、将来の柱となる新規事業開発に取り組みましょう。
会員相互の連携に始まり、産学官金連携など外部支援機関とも積極的に交流します。

③環境変化に対応した強靭な企業づくりを

どんな経営環境にあってもつぶれない企業づくりが、地域から求められています。
情勢を大局的な視点でとらえ、変化への対応能力のある企業づくりを進めます。

④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう

顔が見え、経営が分かる支部組織をつくり、互いの仕事内容や経営課題、将来展望などを交流しましょう。仲間との絆を深め、切磋琢磨できる組織づくりを進めます。

⑤学びあう場を充実させよう

同友会で学んだことは、自社で実践することで、確実に会社は変革されていきます。
「労使見解」に学び「経営指針」「共同求人」「社員教育」に取り組みます。

⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを

全社的な目標を社員が理解納得して取り組むことは、企業変革や外部からの評価につながります。
社員の個性や自主性が発揮できる社風づくりを進めます。

⑦強い組織と安定した財政基盤を

同友会の認知度を高め、中小企業の社会的地位を向上させるには、地域での企業組織率10%を目標とします。また、そのことで安定した財政基盤を確立します。

⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう

「仕事があり、安心して子供を産み育てることができ、将来に夢と希望がもてる地域」をつくるために、地域の特性を活かした新たな産業の創造に取り組みます。

⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を

中小企業が、地域からあてにされ、地域を担う存在として光り輝くために、他団体とも連携して、全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定に取り組みます。

○運動推進の役員（リーダー）と運動を広げるセンターの事務局機能を強めます

新たな経営や運動課題に取り組むには、役員は、同友会理念の体現者として常に学ぶ先頭に立ち、事務局は､期待に応えられる機能の強化が求められます。役員の意識と資質を高めるための学習や、事務局の体制・業務改善・労働環境整備などを進めます。

支部活動の目的と位置づけ

同友会の運動（活動）を進めるにあたり、支部は、基本的な学びの場である例会を行う基礎組織と位置づけられます。さらに「経営上の夢・目標を実現したい、現状の悩みや課題を解決したい」という経営者特有の願いに応える場という役割があります。

同友会は、都道府県ごとの単一組織体ですから、支部の運営で大切なことは、各同友会の基本方針をふまえて、支部活動をすすめることです。支部においても、支部全体会で役員を選出し、活動方針を決め、同友会理念にそった運営をすすめるべきであることはいうまでもありません。

支部活動をすすめる上で重要なことは、リーダーが常に全県的大局観で支部運営にあたることです。

その地域や支部だけの利害を中心に考える狭い発想で県全体の方針と対立することは絶対にあってはいけません。もし、支部と県本部との間に意見の食い違いが生じた場合、同友会運動の基本理念に立ち返って徹底した話し合いを行い、解決していくことです。そのためにも、支部役員は、全県レベルでの役員交流によって、常に認識の一致をはかることが大切です。

支部活動を補完するグループ活動は、形態はさまざまですが、“知りあい、学びあう”ゆるやかな基礎交流の場です。ここでもリーダーの役割が決定的に重要です。

支部活動もその発展段階に応じて総合的な活動を展開することが必要になってきています。県と対応した専門委員会、部会の設置や支部センターの開設も考えられます。他県の先進例にも学びながら活動の視野を広げ、地域社会の発展に貢献する壮大な支部づくりをすすめましょう。

（同友会役員のテキスト「同友会運動発展のために」より一部抜粋）

委員会・部会活動の目的と位置づけ

		部署	活動のねらい	2017年度の活動内容
委員会活動（協議会含む）	強靭な経営体質をつくる	経営労働	企業の存続と発展に不可欠な、経営者と社員が心を一つにする企業づくりを進めます。 特に、経営者の責務である、自社の社会的存在意義や目的を明確にする経営指針の 確立・成文化を進めます。 ①「経営指針を創る会」の開催　②労務労働問題の学習・交流	月1回の委員会 経営指針を創る会 労務労働問題の学習会 各支部理念塾への応援
		共育	“企業は人なり”と言われるよう、人間力の格差がそのまま企業間格差となる時代です。社員 一人ひとりの創意や自主性が発揮できる、“共育＝共に育ち合う土壌づくり”を目指します。 ①社員研修の実施　②支部との連携で共育理念を拡げる ③経営労働・共同求人委員会等との連携で三位一体を進める	月1回の運営委員会 ①ﾌﾚｯｼｭﾏﾝ研修 ②ﾁｬﾚﾝｼﾞﾘｰﾀﾞｰ研修 ③中堅社員研修会 ④ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修会　⑤経営者大学
		共同求人	共同の力で、優れた人材の発見と育成を進めます。2016年度(11月1日～10月31日) の募集は終了しました。2017年度の募集は秋頃に行います。 〔活動の三本柱〕 ①人材採用活動　②人材育成活動　③企業体質改善活動 ＊新卒求人へ準備段階の企業も学習会参加という形でご参加頂けます。	・合同入社式、新入社員研修会 ・合同企業説明会 ・就職情報ガイドブック作成 ・Jobwayで情報発信 ・学校訪問、産学懇談会
		三位一体経営推進協議会	経営労働・共同求人・共育委員会が連携して、「人を生かす経営」を推進します。 今年度は、「人を生かす経営」⇔「人間尊重の経営」のベースになる”労使見解”の 学習から始め、会内外に発信します。	必要に応じて3委員長を招集し 協議会を開催（不定期）
	活動基盤を強める	総務	会運営の要として、同友会理念の普及および安定財政を確立します。 ①役員研修会で同友会理念（考え方）や活用法を会員に普及し深めます ②新会員入会式を定期的に開催し、新会員を温かく迎えます。 ③事務局の労働環境と業務の改善への提言。	月1回の委員会 ①役員研修会 ②新会員入会式（年4回） ③グループ長研修会
		仲間づくり協議会	仲間づくりにおける各支部の取組みを共有し、課題をみつけ、積極的な増強活動を推進します。 ①会員を増やす活動 ②会員を減らさない活動 ③成果を検証改善する活動	月1回の協議会
		政策	中小企業の経営環境を良くするため、以下の取り組みを進めます。 ①企業づくり：あなたの会社、自助努力だけで大丈夫ですか？ 経営環境レポートの作成や学習を通して、中小企業（自社）をとりまく政策課題を考えます。 ②地域づくり：地域が衰退しても会社を維持発展できますか？ 地域振興条例制定への取り組みを進めることで、地域の活性化に果たす役割を考えます。	月1回の委員会 経営環境ﾚﾎﾟｰﾄの推進・学習会 景況調査・政策提言・行政との懇談会 他団体・金融機関などとの交流
		情報化推進本部	各部署と協力し、情報の収集・蓄積・交流・活用・発信等を組織的・戦略的に行います。 今年度は情報活用の4つのチームを作り役割分担して進めます。 ①ホームページPJチーム・・・ホームページの作成、FBなどの利活用 ②e-doyu利用促進チーム・・総務委員会と協力し、新会員フォロー ③女全交協力チーム・・・・・・女全交の広報部会と協業 ④マスコミ・行政チーム・・・・マスコミとの懇談会企画、プレスリリース、各種指標の提出	月1回の会議 各種チームでの活動
部会活動	個々の経営課題に対応する	新産業創造（新しい仕事づくりへの取り組み）	同友会理念に基づき、新製品・新サービスの開発や新規事業の創造をめざし、 信頼関係を基礎として次の実現を目的に活動します。 ①会員企業を知り連携に向けて知恵を出し合う。 ②県内外の企業・機関の見学会を定期的に行い、意見交換の場を作ります。	月1回程度の部会 見学会、学習会、発表会 ＊月会費1,000円
		障害者問題（新しい仕事づくりへの取り組み）	同友会理念が示す「人間尊重の企業づくり」の実践の一環として障害者への理解と 雇用の機会を広げるための活動を進めます。 ①雇用への理解と協力を広げる為の「啓蒙と支援活動」の研究 ②諸団体や学校などとの交流、③新しい仕事づくりへの取り組み	月1回の部会 支援学校生の仕事見学受け入れ 雇用に関する学習会や例会 支援学校・施設・企業などの見学
		環境（新しい仕事づくりへの取り組み）	環境保全型企業づくりを全支部に広げていきます。 新しい商品開発やサービスなどに繋がるように、会全体の交流連携の活動を活発にし 最終的にはビジネスにつながる展開を視野に入れて、活動を進めていきます。	中小企業家ｴﾈﾙｷﾞｰ宣言の学習 環境ﾋﾞｼﾞﾈｽに関する見学会や学習会 環境経営の報告会
		青年	40歳以下の若い会員や後継者の学びの場として、自身と企業の変革について掘り下げます。 ①青年経営者の資質向上をテーマにした例会および学習会の実施 ②他県・他団体の青年経営者および青年部会との交流	月1回の運営委員会 例会・学習会 ＊月会費1,000円
		女性	女性経営者・経営者夫人が互いの立場を尊重しながら、経営者としての資質の向上と 人間的な成長を目指した活動を進めます。 ①同友会理念の総合実践をめざした例会の実施　②経営課題をテーマにした学習会の実施	月1回の運営委員会 例会・学習会 ＊月会費1,000円
		F.P.	富山商業高校での授業の実施のため、講師の育成に取り組みます。 あわせて、模擬株式会社「TOMI　SHOP」への関わりを強めます。	富山商業高校での授業 模擬株式会社「TOMI　SHOP」の支援

〔個別方針〕その１－支部

城南支部

スローガン		自社の経営に生かせる学びをし、そして動く！
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	(A) 自社の方針発表会に仲間を呼べる会社を目指します ・「ライフシフト」を参考図書にした学習会を開催し、10年ビジョンを語り合うことを行います。 ・10年ヴィジョンを持ち、それをいつも示し、日々行動することができる社風づくりに取り組みます。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	(B) 新入社員（新卒または中途採用）が入りたくなる会社を目指します ・魅力的な経営者となるように、また魅力的な会社づくりができるように取り組みます。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	(C) 社員満足・顧客満足の指標を作ります ・自立できる会社に向けた、社員のキャリアづくりに取り組みます。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	(D) ありがとうと言えるグループ会を目指します ・クラウドを活用し、各自の課題への取り組みやアドバイスを随時行える仕組みに取り組みます。 ・課外活動(登山やゴルフなど)を通じて、信頼関係を深めていきます。
	⑤学びあう場を充実させよう	(E) 年に1回は自社をアピールできる会社を目指します ・経営環境レポートにより、相互の業務理解と課題の共有に努め、お互いにアドバイスし合える関係づくりを進めます。 ・支部会員やグループメンバー企業への訪問を積極的に行います。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	(F) 自社の3年後のビジョンを持つことを目指します ・グループ会や課外活動にはできるだけ社員と共に参加して、相乗効果により学びを深めます。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	(G)人を誘いたくなるようグループ会を目指します。 ・グループ会では会内外の経営（後継）者から報告していただきます。 ・若手経営（後継）者の課題を明確にして、会社で取り組むことを進めます。同時にグループ会に参加しやすい雰囲気づくりに取り組みます。 ・若手経営（後継）者の入会を積極的に行います。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	(H)城南ビジネス交流部会の発足を目指します。 ・会員同士の協力体制を強化します。 ・1年に1回程度、会員会社の商品購入・仕事の紹介、依頼を通じて報告会を開きます。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	(I) 例会・グループ会に行政や他団体を誘います。 ・金融機関から様々な企業の事例報告をいただき、自社の経営課題に活かす取組をします。
その他	⑩独自の取り組み	・城北支部合同の「理念塾」の開催をします。会員（経営者）としての第一歩は経営指針づくりとその実践です。 ・年に1回は全国大会に参加をしましょう。全国のレベルを肌で体験することを勧めます。 ・経営環境レポートを年に1回は作成しましょう。時代の流れと経営課題を明確にし、社内で行動しましょう。

城北支部

スローガン		仲間の夢を応援し合い、日本一つながりの強い支部にしよう！
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	**◎理念経営を広めよう！** ○経営理念を成文化した会員同士、理念型経営をともに推進します。 ○経営理念を成文化していない会員へ、成文化の後押しをします。 ○理念塾の受講促進と、品質向上を進めます。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	**◎会員同士の関係を深めよう！** ○自社、自分自身を語り合う場や、経営談義などでお互いを知り、新しい仕事づくりのネットワークを築きます。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	**◎内部、外部環境を踏まえて、自社事業、経営の展望を語れる会員を増やし、全会員が黒字体質企業になることを目指します。** ○雑学探求会など、学習会形式で環境変化に関わる勉強会をします。 ○経営環境レポートを活用します。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	**◎会員にとって身近な支部づくりに務めます。** ○JAMの参加を促進しつづけます。 ○会員同士の関係を強くすることで、実践経験を共有し、明日への行動へと促します。
	⑤学びあう場を充実させよう	**◎同友会を知って活用しよう！** ○たくさんの会員が、参加したくなるJAMに進化させていきます。 ○部会、委員会などのつながりを濃くし、JAMに反映させていきます。 ○練習の場としてのJAMの枠を超え、本番・発表を意識した「LIVE」が出来る環境づくりをします。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	**◎社員の顔までも見える同友会活動をしよう！** ○支部活動に社員を参加させやすい雰囲気や、働きかけをします。 ○「夢を語れる経営者」を目指し、互いに実現に向けて語り合える環境づくりをします。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	**◎ロマンとそろばんを意識した同友会活動を考える。** ○理論優先だけでなく、行動に反映する活動を企画します。 ○黒字体質企業に、こだわっていきます。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	**◎自社にできることを持ちより、新しい可能性を創りだそう！** ○ジャムの経営談義をはじめとして、お互いを知る機会を増やし、新しい仕事づくりやネットワークを築ける受け皿になります。 ○「語ることで気づく」を意識し、自社プレゼンを企画します。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	**◎自社の課題と、地域の課題につながりをみつけだそう！** ○地域振興基本条例を、わかりやすく学習できる機会をつくります。
その他	⑩独自の取り組み	○オープン参加のジャムを活用し、新入の会員さんも話しやすい環境づくりをする。 ○支部を支える次の世代を、育成できる仕組みを確立する。 ○”自主的に行動する”ということを重点にしていく。 ○PDCAを意識した運営計画を行い、活動の成果を全員が共有し、次世代につなぐ支部活動を行います

新川支部

スローガン		本当の支部活動とはどうあるべきか？を追求し、模範となる支部を目指そう！
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	・「指針入門」の受講者（特に、入会1～2年の方には受講を促す）を増やし、受講後は県の「経営指針を創る会」への参加を促します。 参加者の全体会での「理念の発表」を定例化していきます。 ・指針の実践状況や課題・問題点などを報告し合う場を設けます。 ※企業訪問・新川塾の学びの場などの活用 ・2年後には、経営指針を実践して強靭な経営体質を目指す会員を増やし、5年後・10年後の会社の方向性が語れるような学びを行います。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	・商倍交流会は、本音で語り信頼し合える仲間の輪づくりを目的とします。 目的は、①自社の強みを知り②会員同士での新しい連携や③新ビジネスが生まれるような、学びの場です。 具体的には、会員同士の連携を深めるために、企業訪問と連携して、訪問→信頼関係を深める→連携の方法を模索する→新しい仕事づくりを目指します。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	・「同友会で学ぶと会社が黒字になる！」と実感できるよう、強靭な黒字体質の企業づくりに向けて学び合える例会づくりに取り組みます。 ※単独例会は3回位、女全交への参加、フォーラムへの参加、 他支部への参加などの推進 ・特に、内容を深めるためにグループ長打ち合わせを充実させます。 ※女全交のｸﾞﾙｰﾌﾟ長研修（4/11、5/9、5/18）への参加、例会前の打合せの徹底
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	・幹事会の在り方を見直して、新川塾の名称で「学びの場」＋「議事」の2部構成にします。「学びの場」では、会員同士がもっと交流できるよう、参加者が自社の現状を環境レポートをベースに発表し意見交換します。 「議事」は、出来るだけ効率化し幹事以外の会員（特に新会員）も気軽に参加いただける場にします。 ・「参加するのが楽しい！待ち遠しい新川塾」づくりに取り組み、幹事だけでなく支部会員が思いを一つにした運営体制や役割分担を確立します。
	⑤学びあう場を充実させよう	例会で学びと実践を深めるために、グループ長の質を高めることが必要です。③とも重複しますが、県の勉強会への参加を促します。 ・人を活かす経営（経営指針の成文化と実践・社員の採用・社員教育・障害者雇用）に重点を置いた、例会や講座に取り組みます。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	・指針の実践には、社員との共有や学び合いが必要です。社員が参加しやすい社員も主役になれる支部活動づくりに取り組みます。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	・今年度は120名必達を目指します。 ・そのために、 ①会員の企業訪問を数多く行う ②市町村ごとの組織率を考慮して、例会を行う地域や商工会などの他団体にゲスト参加の声掛けを行います。 ③「同友会を知る会」を計画的に開催します。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	・地域についての学びを深めるため、ハッピー上市との連携で「元気な地域づくり」の講座を設け、学びを深めます。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	・朝日町や上市町では、会員が関わっての地域活性化の取り組みが進められています。他の地域でも取り組みが進むよう、その成果や課題を共有できる取り組みを進めます。 ・行政との交流をすすめ、中小企業振興条例についての話し合いの場を設けます。 課題⑧の通りの組織変更で、中小企業憲章や中小企業振興条例の勉強会をすすめます。
その他	⑩独自の取り組み	・課題④の通り、幹事会を名称・内容とも変更します。 全会員を対象として、毎回2社の経営環境レポートの発表を行い、自社の置かれた経営環境を考えます。運営の効率化と会員同士の交流と経営のレベルアップの場にします。

高岡支部

スローガン		みんなで女全交・新支部創設に参画して 元気な企業づくり、仲間づくり、地域づくりを目指そう
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	高岡・射水・氷見3支部準備会が合同で理念塾を開催します。 理念塾や経営指針を創る会の受講を奨め、受講者を増やすと共に、課題の取り組みを応援し、気付きにつながる支援をして経営理念の成文化を目指します。 受講後の実践を推進するため「企業変革支援プログラム」を活用したフォロー研修を設けます。また実践報告の場を幹事会・地区会・例会で設け、共に学ぶ機会を増やしていきます。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	地区会での企業訪問を通して会員同士が互いの仕事を知ることから始め、幹事会・地区会・例会での経営談義や高岡開催の同友フェスタに多くの会員が参加をして企業間連携から新しい仕事づくりに繋げていく場づくりを行います。 また環境問題、エネルギーシフトの分野で会員連携から新しい仕事の事例が出るように支援します。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	人口減少、特に就業人口や定住人口の減少が顧客の減少、若年層の減少が求人を困難にしています。少子高齢化社会への対応はすべての会員の課題です。また、新幹線開業、エネギー問題、技術革新などに対応するため適格な経済環境状況の知ることや対応の事例から学び、大局的な視点を持ち長期ビジョンを創ることが不可欠です。自社の強みを磨くこと、会員企業同士の連携を実践することで強靭な企業づくりを行います。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	高岡・射水・氷見の3支部への拡大分離により地域に密着した支部づくりをめざします。 互いを知る、顔の見える、少人数の地区会（グループ会）での会社訪問と経営環境レポートの報告と意見交換会を頻繁に自主的に開催します。また入会歴の浅い会員の同期会やベテラン会員のプラチナクラブでの活動を通して絆を強めます。ゲストにも気軽に参加してもらい「同友会」を知ってもらう場としていきます。
	⑤学びあう場を充実させよう	女性経営者全国交流会in富山や射水・氷見支部設立への参画を通して会員各自が積極的に学ぶ場とするように働きかけます。また、身近な地区会では新しい会員を中心に経営環境レポート報告と意見交換を行い各自の学びの場を提供していきます。毎月の幹事会後半では全県専門委員会の委員からの報告を中心に多くのテーマから学びあう場となるよう働きかけていきます。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	同友会での学びを自社に持ち帰り、社員と共に実践。そしてPDCAを回し成長する会員が多くなるように地区会の会員企業訪問で会員同士が互いに励まし合い、気づき合い実践の検証を行っていきます。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	高岡支部は年度末の2018年3月に105名の会員数を目標に地道に仲間づくりを行います。 また会員フォロー担当と活性化担当のプラチナクラブの活動で入会2年目以降の会員がより多く活動に参加するようにしていきます。結果的に退会者の減少になると思います。自主的運営を心掛けると共に「e-doyu」の活用を推進して事務局の労務負担軽減に努めます。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	第2回同友フェスタでは企業連携へ推進できる機会となるようにしていきます。 高岡支部会員はモノづくり関連業種が多く、地区会で会員企業訪問を行うことで互いの仕事を知り、連携から新しい仕事や産業の事例が出てくるよう機会を増やしていきます。 また、昨年度できなかったエネルギーシフトの勉強会を幹事会で開催します。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	2016年度に高岡市では中小企業振興基本条例が制定されました、今後、振興会議のメンバーに会員が参画できるように学習と渉外を実施していきます。また地域に存在感を与えられる組織になることと、会員数100名強の達成を目指します。
その他	⑩独自の取り組み	昨年度の仲間づくり推進委員会の会員活性化委員会が発展してベテラン会員によるプラチナクラブを創設します。ベテラン会員向けテーマでの学習会や企業訪問などクラブ独自の活動と若手会員との交流や経営談義が支部活動をよりいっそう活発にし、ますます支部の発展につながっていくと確信しています。

射水支部（準備会）

射水市の誕生より１０年を迎えました。この新しい市の一体化に向けての取り組みはまだまだ道半ばのように感じています。より地域密着を願っての射水支部の設立ですが、この地域の活性化及び一体化を醸成する事こそが、良い経営環境を造ることにもなると信じております。

射水支部では、本年度は体制を「造ること」 学びを「伝えること」 仲間を「拡げること」を主眼に置き活動していきたいと思います。その為に、

①経営理念の明文化に関しては、積極的に取り組んでいきます。
②さらには、支部例会へのゲスト参加に積極的に取り組みます。
③共同求人やフォーラム・理念作りなどのシステムがある事を強みとしての仲間づくりに取り組みます。

２０１７支部スローガン

「造ること」「伝えること」「拡げること」

活動方針

９月２３日の設立総会に向けて全員一丸となり知恵を出し合います。
全員が役員との気持ちでお互いに声を掛け合い絆を大切にします。
例会・全県事業・委員会の活動を伝えあい、実践のためのサポートを重要視します。
射水市への認知を高めるために、オープン例会を開催します。

氷見支部（準備会）

氷見支部の活動が今年９月１０日の支部設立総会より動き始めます。
今年度は、活動の中心となる支部組織の充実を図っていきたいと思います。

２０１７支部スローガン

「地域と共に新たなスタート！」

活動方針

経営指針の成文化に向けて会員の意識を高めていきます。
会員相互の交流を深めていきます。
学べる場づくりをより多く提供していきます。

となみ野支部

スローガン		会員間の連携を深め、地域と共に、未来を変える。
よい会社をつくろう	①経営指針の実践に踏みだそう	組織の目指す方針や目標が定まって、組織が一体となって前に進んでいくには、経営指針の策定が必要不可欠だと考えています。また、その社内での実践を通して社員の方々と一緒にPDCAサイクルを回しながら、進捗確認をする事も必要になってきます。そのために、支部では経営指針セミナーを今年度も開催し、企業変革支援プログラムの活用も進めていきたいと考えています。支部の指針受講生に県の指針作成講座への参加の呼びかけを積極的に行います。
	②強みを活かし、新たな仕事づくりを	会員間の連携を深め、新たな仕事づくりを進めていくには、お互いの会社の強みや弱みを知ることが必要だと思います。そのためにも、ビジネス交流委員会において、会員企業訪問や自社PR、また各種の勉強会を通して、そのきっかけをつかんでいきたいと考えています。また。ビジネス交流委員会の活動を通して自社の存在価値を改めて考え、会員間の連携を通して新たな価値が提供できないかを考える場にしていきたいと考えています。
	③環境変化に対応した強靭な企業づくりを	自社が置かれている環境を、定期的に振返る事は経営者にとって、とても重要な仕事だと考えています。そのためには、先ずは自社の経営環境レポートの作成と発表に取組む事が必要だと考えています。支部では社外重役会議を開催を通して、自社を振返り、また、参加者から違った立場で意見・質問・アドバイスをもらう事は、とても貴重な機会で、多くの学びと気づきのチャンスがそこにあると思います。是非、新たな会員の方には積極的に取組んでもらいたいと思います。今年度は既存会員と新入会員両方に報告していただく場を創っていきます。
優れた経営者になろう	④支部会員の絆を強め、切磋琢磨しよう	支部会員の絆を深めるには、先ずはお互いの事を知る所から始まると考えています。では、どうすれば知ることが出来のでしょうか？例会、グループ会、幹事会などの場でもそれは出来ると思いますが、そういった公式の場だけではなく、その後の懇親会や、会員の企業訪問等を通して、普段は見る事が出来ない、普段は喋ることが出来ない事が可能になったりするのではないかと考えています。そのためにも、いつもとは違った場所、違った時間で見えてくるものがあると思います。お互いの事をよく知り、一体感を強めると、地域にとっても当てにされ、必要な組織になると考えています。
	⑤学びあう場を充実させよう	今年度はオープン例会は年2回、社外重役会議は年4回を予定しています。グループ担当例会は廃止とさせて頂きました。今年度は新支部設立や、女性部の全国交流会に向けて各種の委員会・部会、G長研修もありますので、支部の活動計画を見直しさせて頂きました。各グループのグループ長と幹事が共に例会や社外重役会議を企画から当日の運営まで準備する中で、グループ内の絆を深め、お互いの事を知るきっかけに繋げていきたいと考えています。また支部の運営を話し合う場ではなく、純粋に経営談義をする場をつくります。
	⑥社員と共に成長し、全社一丸となれる企業づくりを	社員と共に成長していくには、お互いが共に学べる機会が必要ですし、お互いの立場の違いや、考え方の違いに気づく機会も必要になってくると思います。その機会として、支部の例会や社外重役会議に積極的に自社の社員の方も一緒に参加して頂きたいと考えています。また、自社の現状を把握し、改善点を探る上でとても有効なツールとして企業変革支援プログラムがあると思いますので、今年度は支部の指針作成講座や社外重役会議等でその活用を前に進めていきたいと考えています。
よい経営環境をつくろう	⑦強い組織と安定した財政基盤を	今年度は支部会員100名体制へとするべく、支部活動を前に進めていきたいと考えています。具体的には、社外重役会議、経営談義の場を活用し、継続的にゲストの方々が参加できる環境を整えていきます。また、既存会員の方であまり参加頂けない会員（ご無沙汰会員）の企業訪問を実施していきます。それらの活動を通して、企業づくり、地域づくり、そして仲間づくりへと繋がり、結果、地域に当てにされる同友会、認知される同友会になると考えています。
	⑧新たな産業の創造で、元気な地域をつくろう	新たな取り組みを実践されている方や組織との交流を図る事で、同友会会員だけでは気づけなった新たな学びと交流の輪が広まるのではないかと考えています。そういった場を昨年度は中々創る事が出来なかったため、今年度は社外重役会議、オープン例会、経営談義の場等を活用しながら、会員以外の方々との学びと交流の場を創り、仲間づくりにも繋げていきたいと考えています。
	⑨全ての市町村で中小企業振興基本条例の制定を	昨年度は南砺市の後、小矢部市でもこれまでの活動が実り、中小企業振興基本条例の制定にいたりましたが、今後はこれまでの活動で得られた気づきと学びを残る砺波市にも展開していきたいと考えています。砺波市内の青年経済団体（JC、商工会議所青年部）と連携し、振興条例策定に向けて勉強会や懇談会等を企画・開催していきたいと考えています。
その他	⑩独自の取り組み	新たに、支部運営について話し合う場ではなく、会員だけではなくゲストの方も参加出来る経営談義をする場をつくっていきます。また、社外重役会議をしっかり開催し、新入会員の方が支部の活動に徐々に参加出来る体制（県の入会式→社外重役会議→支部の指針作成講座→県の指針作成講座）を整えていきます。すぐに成果は出ないかもしれませんが、これらの活動を継続していく中で、仲間づくりの増と強が出来る活動を定着させていきたいと考えています。

〔個別方針〕その２－情報化推進本部

富山同友会にとって様々に存在する情報資産を、会内外で最大限利活用出来るようにし、会員企業一社一社の成長や富山同友会の組織力強化を図ります。そのために本部内に以下のプロジェクトチームを置き活動します。

・ホームページＰＪチーム：ホームページの作成、成長に対する働きかけ。FB などの利活用促進
・e-doyu 活用促進チーム：総務委員会と協力し、新会員フォロー
・女全交協力チーム　　：女全交の広報委員会と協業
・マスコミ、行政交流チーム：マスコミとの懇談会企画、プレスリリース、各種指標資料の提出など

〔個別方針〕その３－総務・仲間づくり・政策

◆　総務委員会

課題⑤⑦　同友会研修会を通して、自主・民主・連帯の意義を再確認して、地域をつくる経営者を目指します。

また、辞めない組織を目指し、年４回の新会員入会式を行います。その中で同友会の歴史・活動内容・組織・e-doyu の使い方などを学んでもらいます。

課題⑩　事務局の負担軽減と安心して働いてもらえる環境整備のため、総務委員会として業務改善を図ります。

◆　仲間づくり協議会

１．会員を増やす活動

今年度は、６月に女性経営者全国交流会が富山で開催されますので、それを一つの目標に、活動を強化していきます。また、７月には仲間づくり例会を開催し、一部の担当者だけが仲間づくりをするのではなく、会全体で協力して仲間づくりが出来るようにしていきます。

２．会員を減らさない活動

減少をゼロにすることはできませんが、出来る限り引き止めることを考えてもらう必要があります。日頃から、お誘いを多くすることを心がけ、会員を孤立させないような気配りが必要です。

支部によって、やり方は違うと思いますが、会員への声掛けを大切にした活動を目指します。

３．成果を検証改善する活動

昨年度は、協議会のみなさんの意見を基に、活動評価基準を作成することに時間をかけました。

これを使ってそれぞれの活動を検証し、問題があれば改善してより成果の上がる仲間づくりを進めていきたいと思います。７月・11 月・３月に、それまでの活動を検証して次に生かせるようにしていきたいと考えます。

４．協議会を活性化する

富山同友会の仲間づくりは、私たち仲間づくり協議会が発信の基であり、協議会自体が活発な意見交換や行動がなければ、活動は低下します。それだけに、協議会のメンバー自身が積極的に活動や行動することこそが、富山県全体の活性化に繋がります。

◆　政策委員会

スローガンに「地域づくり」が掲げられていますが、自社の経営課題と政策課題や地域づくりがつながっていない会員が多いようです。その間を繋ぐことが、委員会の活動の原点であり役割です。

2017 年度は、以下の内容で取り組みを進めます。

１、あなたの会社、自助努力だけで大丈夫ですか？一企業の努力だけでは解決できない政策課題が、多様化し増加するなか、経営環境レポート作成を全会的に展開し、景況調査（年２回）の内容とあわせて、政策提言や行政との懇談会に活かします。

従来取り組んできた、タイムリーな勉強会などは、金融機関などとも連携しテーマを工夫して実施します。

２、地域が衰退しても会社を維持発展できますか？これまで、中小企業憲章・中小企業振興基本条例の制定への取り組みを進めてきましたが、ようやくいくつかの自治体で振興基本条例の、制定への動きが出てきました。しかし、制定までの過程や制定後のあり方などに不十分さがみられます。各市町村の現状にあわせた取り組みの検討が必要です。

〔個別方針〕その４－経営労働・共同求人・共育・三位一体経営推進協議会

◆　経営労働委員会

『同友会らしい企業づくりは理念経営の具体的な実践から』

課題①⑤⑥　経営指針成文化と実践運動を引き続き推進します。

経営指針の成文化と実践こそが同友会運動の一番の基礎部分。「経営指針を創る会」を富山同友会における成文化運動のセンターとして位置づけます。

実践経験に基づく学び合いの場となるよう、数多くの受講ＯＢと共に進めていきます。

期の前半に開催される各支部の理念塾とも情報交換・連携も強化していきます。

実践については、より多くの会員が「三位一体」の取り組んでいけるかということにこだわっていきます。経営労働委員会が「三位一体」のスタート地点となれるよう、意識を高めていきます。各支部の会員が自立型企業づくりを進められるよう、委員会として今まで以上にかかわりを持っていきます。

・支部と組んで例会や勉強会を開催し、学びや実践のスタート場づくりをしていきます。

・共育委員会、共同求人委員会との連携を進め、地に足のついた三位一体を一つでも多く進めます。

課題③⑥　「労使見解」にもとづいた労働環境改善についても取り組みます。

定期的な就業規則づくりや労働環境改善（賃金・時短等）についての勉強会や例会を通して、労務・労働委員会としての役割も果たしていきます。全国行事などの関連分科会等についても情報共有し、学びと社内実践のきっかけとしていきます。

社員と本当の意味でのパートナーとなり、よい会社づくりを進めていけるよう、委員会では、会員どうしがお互いに学び合い刺激し合える場として機能していきます。

◆　共同求人委員会

富山同友会における共同求人委員会は 30 年以上の長きにわたり、多くの先輩たちが乗り越えてきた困難な道の上に今があることを我々は改めて認識し、心から感謝したいと思います。これからは先人の築いて下さった実績を基に、三位一体活動の中心を担い、同友会の未来を創る先頭に立つ委員会として、これまで以上に活動を進化させていきたいと考えています。

共同求人活動とは単に自社の人手不足を補う採用の一手段ではありません。ここで採用した社員が豊かな人間として育ち、一人ひとりの社員の成長を通して、明るい地域・社会が創られていくという未来に通じる活動であります。

＜人材採用活動について＞

「共同求人」の理念に忠実に、またこれまでの学校や地域との信頼関係に基づいて、同友会会員、共同求人参加企業に対する理解を広げる活動を行っていきます。売り手市場の中、学生たちの合同企業説明会離れ（ネット中心の就職活動？）は今後も進むと考えられます。そこで、学生の動向や学校の取り組みの変化を見極めながら、学校との連携をより重視した活動を展開していきます。このような時代だからこそ、基本に返ることで、学校や学生に対して、“中小企業で働く意義”“中小企業の良さ”を理解していただくチャンスが生まれると思います。また新しい考え方、やり方を模索しチャレンジすることも必要です。委員会として積極的かつ組織的に、また委員一人ひとりが自主性を発揮して取り組みます。

＜人材育成活動について＞

三つの委員会活動を通して、経営指針書を成文化し、新卒採用を行い、社員研修を積極的に行う会員が少しずつ増えてきました。共同求人では、＜採用と育成＞を一体のものとしてとらえ、新入社員が、社会人・企業人としての基本的な考え方やマナーを身につけるための基礎教育を、共同の力で行っていきます。研修にあたっては、参加企業が主体的に関ることが重要で、企業としての事前準備や経営者（担当者）も参加して共に学ぶことが大切です。また、研修内容については、常に改善・見直しを行ってより充実した内容になるよう努めます。さらに、会員経営者が講師となったり、グループ討論に参加したりして、経営者が新入社員の目線で関わることを通して、学んでいきます。このような人材育成を重視する姿勢は､学校や父兄･学生との信頼関係の醸成につながり､“人育ての場としての中小企業”の役割を果たしていきます。

＜総務活動について＞

優れた人材採用の原点である“魅力ある企業づくり”の活動を進めます。やりがい、働きがいを実感できる社風づくり、労働環境整備などを積極的に学びます。運営委員会開催の際は、広く共同求人委員メンバーにも告知してオブザーバー参加を可能とし、次世代の運営メンバー候補の発掘・育成を図ります。委員会としての作業（郵送作業や確認作業など）は事務局任せにせず、委員会全員で行うことを基本とします。

運営委員会では、議事の順番を、審議事項、協議事項、報告事項に分類し可能な限り事前配信して、当日の委員会進行をスムーズに行えるようにします。急な案件は正副委員長で判断するか、緊急で委員会を開催するか、メールやイードーユー内で委員会を開催し、必ずなんらかの形で委員会の協議・審議を経てから承認されるものとします。

◆　共育委員会

課題①　同友会理念に沿って、人財育成への考え方を明確にする必要があります。「経営指針を創る会」のカリキュラムに「共育（共に育つ）という事はどういう事なのか」を追加してもらい、パートナーである社員の成長と、経営者自身の成長を考えます。（ＥＳ）

課題②　「社員の個性を引き出し、それを生かす社風」をつくるため、経営者と社員のコミュニケーションの場をつくります。自社の社員を理解するには､他社の社員（似た年齢や立場）と接することが大切と考え､経営者の研修への参加を促進します。（個性を活かす社風）（中堅社員研修）

課題③　変化に対応できる組織＝社員に育てるには、基本教育が必要だと考えます。。相手を敬う言葉使い、聞こえやすい大きな声、気持ちのよい挨拶など、基本教育にも力を入れます。（基本教育）（チャレンジリーダー研修）

課題④　「他社の経営者と一緒に自社の社員を育てる」が、共育委員会の醍醐味です。そのため

には、経営者同士がお互いを知り、理解することが必要と考え、絆を深める場をつくります。（共に育てる）（研修事前交流会議）

課題⑤　各支部内で社員教育の大切さを訴えます。例会や研修などで、共育委員会に興味を持ったゲストに来てもらえるようにします。そのためには、共育委員会をわかりやすく表現することや、ＳＮＳなどを利用した情報発信も行っていきます。（仲間を増やす）（経営者大学）

課題⑥　全社一丸となるには、一丸となれる目標が必要です。自社のビジョンを持ち、全社員と共有して、社員と共に学び成長できる研修を行います。（一丸となれるビジョン）（マネージメント研修）

課題⑩　情報発信：社員教育には興味はあるが・・、そんな会員さんに研修に参加してもらう為、研修現場の出来事や、委員会の考え方、取り組みなどの情報を発信し、各支部で行われている例会などでのＰＲを積極的に行います。（重点課題）「会社が変わった！」を言い合える場をつくります。

◆　三位一体経営推進協議会【新設】

目指すところは「人を生かす経営」を推進することです。「人を生かす経営」とは、「『人が生きる会社』を目指す経営」ということです。そのためには、

・どんな時代にも対応できる企業づくりのための「経営指針」を成文化し全社で実践。
・魅力ある企業への取り組みとして、若者が育つ環境の整備をすることで人が定着、そして継続的な採用活動をすることで地域の雇用を支える。
・次世代を担う人間が成長するため、経営者と社員が一緒になって人が生きる状態を追求する、共育ちの社風づくり、が必須です。

本年度は、このことに関わる経営労働委員会、共同求人委員会、共育委員会と「人を生かす経営」⇔「人間尊重の経営」のベースになる“労使見解”についての学習から始めます。

〔個別方針〕その５－部会・研究会

◆　障害者問題部会

部会理念「私達は、誰もが共に働く喜びと幸せを感じられる地域社会をめざします」

課題③　行政や教育機関との連携を強化し、障がい者と障がい者雇用について学ぶ、学習会や例会に取り組みます。充実した学の場である 10 月 19-20 日（木金）に広島県福山市で開催される「障害者問題全国交流会」への参加を推進します。

課題⑦　昨今の人手不足により、今後ますます障害者雇用が企業の力になっていくと予想されます。部会の取り組みが、障害者雇用に関心のない会員企業と障害者の方とを繋ぐきっかけになるよう、本音で語り合い活気ある部会を目指し、部会メンバーの増強（企業経営者。福祉経営者）に取り組みます。

◆ 新産業創造部会（クリップ富山）

課題①　経営指針を成文化し実践を進め計画をたて理念経営の確立を目指します。
課題②　会員企業を知り連携に向けて知恵を出し合います。
課題⑤　見学会を定期的に行い、社員も含めた意見交換の場を作ります。
課題⑥　お客様の要望や社員のアイデアを集め、取り組み状況の報告を行います。

◆　環境部会

課題①②③⑤⑧

・環境経営の取り組み報告は継続します。経営理念の中に環境についての考え方が明記されて

いても、経営者自身が腑に落ちているか否かで、その後の実践に大きく影響しています。会（会員）にひろげるいみでも、引き続き委員会や支部と連携して実践発表に取り組みます。

・環境ビジネスやエネルギーシフトについては、見て・聞いて・触れて自社で何ができるかを考えることが必要です。学習会や見学会を開催し、ビジネスモデルの創造につなげていきます。

・射水・氷見の新支部創設に協力します。

◆　女性部会

課題①②③：活動内容・グループ討論の充実（よい会社をつくろう）

「女性が働きやすい職場＝誰もが働きやすい職場」と位置付け、経営者、働く側、両方の視点から“よい会社づくり”に取り組んでいきます。そのため女性幹部社員も巻き込み、よい会社の土台を築くための勉強会（セミナー）を３回開催します。今年度は「数字に強くなって、財務体質を改善しよう！」をテーマに、決算書の読み方から経営分析、計画の立て方など、『数字の見方・考え方』について学びます。また今年度も引き続きグループ討論を深めることを目標に、事前のグループ長ミーティングを充実させ、グループ討論で自社の課題を明確にすることを目指します。

課題④⑤⑥：会員同士の絆を強める、学びの機会を増やす（よい経営者になろう）

同友会活動や全国交流会への参加は、視野を拡げ学びの機会を増やすと共に、同友会会員に女性部会への理解を深めてもらうことにも繋がります。「報告者の育成や役割の経験などを目的に、参加を促進しよう！」を引き続きテーマに、女性部会員全員が全国交流会は年１回、他支部の活動には積極的に参加することを目指します。会員同士顔と会社が見える取り組みとして、今年度も引き続き学習会（経営体験報告及び会社見学会）を２回開催します。内、１回は年末の望年会と同日に開催し、より多くの方が気軽に参加でき、多くの学びを得られる機会とします。

課題⑦⑧⑨：情報発信強化、仲間づくり（よい経営環境をつくろう）

今年度も引き続き会内外への情報発信強化に取り組みます。情報化推進本部にもご協力頂きながら、フェイスブック（以下ＦＢ）と富山同友会ホームページ（以下ＨＰ）の活用をすすめます。ＦＢでは学習会・例会の開催告知や、会場の様子をリアルタイムに発信していきます。

また、活動レポート作成を参加者に依頼し、それをもとにＨＰ記事作成を行い、より詳細な活動内容を発信していきます。

長期的な目標として、女性部会が地域づくりに影響を与えられる女性経営者の集団になることを目指し、富山同友会全体での女性経営者比率を高めることと、女性部会員増に取り組みます。顔と会社が見える仲間づくりのため、定期的な女性ゲスト訪問活動と、女性会員に対し女性部活動への参加呼びかけを行います。具体的な目標としては、来年４月の女性部会総会で女性会員１２０名達成をめざします。

◆　青年部会

スローガン『夢を語り、目標達成する喜びを実感できる青年部活動』

重点方針　「会員が集まって、自社や自身を共に良くする活動の場をつくる。」

◎会員が、相互に目標を共有し、共に達成します。

・年度末迄の会社の達成目標を決め、会員で共有し、共に達成しよう。

・会員が目標を達成する習慣をつくります。

・会員が相互で助けあうことで、会員同士の結びつきを強めます。

◎例会を開催します。

・会員経営者の生の体験報告を聞き、グループ討論を行います。
・会社と経営者のあり方の核心に迫る意見の交換を行います。
・報告者、参加者、運営者がそれぞれ学びになるよう配慮します。
◎全県や支部活動や、委員会、他県の青年部と交流します。
・他の同友会活動にも参加し、青年部活動を知っていただく。
・常に青年部の存在意義を問い直し、改善、成長を図ります。
・会員の英知をお借りして、質を高めよう。

◆　Ｆ．Ｐ．部会

課題⑤　同友会会員が､地域の小･中･高･大学の授業で講師を務めることを通して､『働くとは』『生きるとは』『地域とは』の理解を深めていきます｡また､この視点を踏まえ｢何の為に･･･｣｢誰の為に・・・」を考える事の出来る子供たちを育んでいきます。学校や社員を巻き込みながら地域と共に学び合う場を創ります。さらに、関わった会員が、社員共育・求人活動の必要性を感じて、採用・共育につながる活動を目指します。

課題⑦　生徒･先生に関わることで、中小企業の社会的役割や必要性を伝え、地域に必要とされ、無くてはならない同友会の立ち位置を目指します。生まれ育った富山で働く喜びと意義を子供たちはじめ地域社会に発信し、次世代の担い手を育成します。また、本活動をより多くの学校に広げていけるように、三位一体の各委員会と協力し、教師経験者を増やし、各学校からの講師依頼の受け皿になれるように体制を作ります。

研究会

■　未来来ＴＯＹＡＭＡ（立教大学の山口先生を囲んでの勉強会）

未来来とやまは、17 年目に入っています。山口教授がお元気なうちは継続する決意です。

あと 2 年ちょっとの 20 周年の記念大会では、参加企業の優れた自社変革の発表ができるよう、メンバー全員で気合いを入れていきたいと思います。

■　戦略的経営塾

モデル企業 2 社の経営戦略に本気で関わる取組を初めて 2 年目。2016 年度の 2 社は、自社技術を活かす為の夢を実現や海外への販路拡大と地元資源の活用へ取組始めるなどの実績につながりました。経営指針の実践、ビジョンの実現に戦略的思考はなくてはならないものです。自社の強みをどの様に活かしていくか。経営者の本気度と、多様な業種が集まる塾生同士の本気の関わり合いから実践し結果を生み出す一年にします。

〔個別方針〕その５－全県行事・全国行事・役員・事務局

◆　全県行事

全県行事は、全会員を対象に交流を深める場です。参加する一人ひとりの会員にとっては、多くの仲間との交流を通じて、支部・委員会・部会ではできないスケールと広い視野から学ぶことができます。今年の主な全県行事は、次の通りです。

１．同友フェスタ（仮称）　〔２０１７年１２月９日（土）―１０日（日）〕

会員企業が自社アピールを通じて企業連携、商品コラボを目指すと共に、社員の家族や地域生活者に対しても自社の技術・商品に対する理解を深めてもらいます。さらに学校・行政・金融機関との連携を模索する機会とします。

２．２０１８新春のつどい　〔２０１８年　1月２７日（土）〕

新会員を温かく迎え、会員相互に新年の決意を交流することで、心新たに１年の元気なスタートを切る機会とします。

３．第２８回経営研究フォーラム　〔２０１８年3月2日（金）〕

経営研究フォーラムは、経営課題を取り上げて展望を切り開く学びの集大成として、①全県レベルでの学びあいと交流　②分科会での質の高い論議　③準備過程での論議の積み上げと共同作業が連帯感を生み会活動の前進に貢献　④グループ長の養成などを通じて積極的な会員を生み出す　⑤自治体、マスコミなど対外的アピールの機会　⑥会員増強の機会です。

より多くの会員やゲストが参加しやすく深く学べる内容となるように準備を早めに進めます。

４．第３９回定時総会　〔２０１８年　4月２４日（火）〕

年々の同友会活動・運動の到達点や成果・教訓を確認し、新しい年度の企業経営と同友会の発展方向や活動内容を示します。

◆　全国行事

中同協が行う全国的な行事は、各地の優れた実践を集大成として一カ所に集め、さらに大きなうねりに高め、また各県同友会のうねりにして返す役割を果たしています。全国的な行事に参加する一人ひとりの会員にとっては、全国の志を同じくする仲間との交流を通じて、一同友会ではできない大きなスケールと広い視野から学ぶことができ、経営と同友会に元気を生み出します。

全国・中日本ブロック行事等年間予定表

2017/05/25-26	中日本ﾌﾞﾛｯｸ支部長交流会・代表者会議	石川
2017/06/06	中小企業憲章ｷｯｸｵﾌ集会	東京
2017/06/15-16	第20回女性経営者全国交流会	富山
2017/07/06-07	中同協第49回定時総会	愛知
2017/08/31-09/01	経営労働問題全国交流会	京都
2017/09/14-15	第45回青年経営者全国交流会	茨城
2017/10/05-06	2017組織強化･広報･情報化全国交流会	東京
2017/10/19-20	第19回障害者問題全国交流会	広島
2017/12/07-08	共同求人・社員教育活動全国交流会	島根
2018/02/08-09	第48回中小企業問題全国研究集会	兵庫

◆　役　員

○　役員は、「地域の未来づくりへ挑戦！」の実現をめざし、会員との関わり合いを深め、仲間づくりや活動づくりの率先垂範に努めます。

○　同友会運動の視点から、担当部署以外の活動についても主体的に関わり、活動のＰＤＣＡのサイクルを絶えず確認しながら、活動の相互連携や補完し合うことで個々の企業強化に結びつけ、点から線へ、線から面に広げ、地域経済の活性化の実現をめざします。

○　第６次中期ビジョン推進の最終年となります。役員が一丸となり、年度方針と一体に捉えて運動（活動）を展開していくことが必要です。

○　理事は、年に１回は全国行事に参加します。

同友会の役員会（理事会、支部、委員会など）は、三つの目的の実現をはかる同友会運動を推進し前進させる責任を持っています。
定例の役員会においては、情勢問題や経営課題をまず取り上げて、企業づくりをどうしていくかを役員会の中心課題にしていくことが一番大事です。会の運営をも企業経営とリンクさせて、企業づくりが役員会で話されることが会員の企業づくりや同友会づくりをすすめる力になります。

（同友会役員のテキスト「同友会運動発展のために」より抜粋）

◆　事務局

同友会運動を担うパートナーである私たちは、歴史や理念、情勢について積極的に学び、会員はじめあらゆる人々との関わりを通して自らを高め、「人を大切にする社会づくり」の一翼を担います。

◎　会員との関わりを強め活動に生かします（企業づくり）

「事務局は、会員とともに同友会運動を進める主体者」と位置付けられています。

厳しい経営環境の中で奮闘している会員企業の実情を知り、会員の声を謙虚に受け止め活動に生かしていきます。

◎　政策・調査活動を担える力量を磨きます（地域づくり）

企業づくりと地域づくりは一体の関係にあり、地域づくりを支える政策・調査活動はますます重要になっていきます。各方面から同友会が当てにされる場面もさらに増えてきました。そうした期待に応えられるよう事務局としての力量を磨きます。

◎　やりがいが感じられる強くて優しい組織をつくります（同友会づくり）

会員と一緒に仲間づくりに取り組み、新しい仲間を迎える喜びを味わいます。また、誰もが働きやすい事務局を目指し、就業規則や各種制度を研究し整備します。

富山県中小企業家同友会規約

第1章　総　　則

第１条【名　称】本会は、富山県中小企業家同友会と称し、事務局を富山市におきます。
なお、必要に応じ支部を設けます。

第２条【目　的】本会は、次の目的の実現をめざして活動します。

１．ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強靭な経営体質をつくることをめざします。
２．中小企業家の自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し新しい時代の経営者に求められる総合的な能力を身につけることをめざします。
３．他の中小企業団体とも積極的に交流して、中小企業をとりまく社会・経済環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ日本経済の自主的・平和的な発展をめざします。

第３条【事　業】本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行います。

１．会員の多種多様な要望を基礎に、知識、技術、経験の交流、経営研究などを行います。
２．会員相互の親睦と信頼を深め、会員の実益に資する諸行事を活発にすすめ、また会員間取引の安定した運営を計ります。
３．中小企業にふさわしい労使関係と相互信頼を確立するための研究活動をすすめます。
４．国や地方自治体に対し、中小企業の要望にかなった行政が確立されるよう働きかけます。
５．全国各地の同友会および、県内地域の中小企業団体と積極的に交流します。
６．会員相互の交流、研鑽、情報の提供、会外への広報のため、機関紙（誌）等を発行します。
７．以上の活動をすすめるために例会、委員会等を定期的に開きます。
８．会の目的を達成するために、各政党とわけへだてなく接触しますが、会としては会員個人の思想信条の自由を保障しつつ特定の政党と特別の関係を持ちません。
９．その他、目的達成のために必要な事業を行います。

第2章　会　　員

第４条【会　員】

１．資　格＝本会の趣旨に賛同する中小企業家およびこれに準ずる者を会員とします。
２．入　会＝入会は、会員１名以上の推薦を得て申し込み、理事会の承認を得ます。
３．退　会＝退会は理事会に退会届を提出し、その承認を得ます。

第５条【入会金・会費等】入会金は一企業ごとに、会費は１名ごとの月額で表し、金額については総会で決定します。なお会費は、３ケ月ごとの前納を原則とします。また、必要に応じ支部会費を集めることが出来ます。

第3章　機　　関

第６条【機　関】本会に次の機関を置き、活動の推進に当ります。

１．総　会＝最高の決議機関で、活動の総括、活動方針の決定、決算の承認・予算の決定、規約の改廃、理事・会計監査の選出、その他、重要事項を決議します。
総会は年１回定時開催し、理事会が招集します。 会員の$\frac{1}{3}$以上の要請、又は理事会が必要と認めたときは臨時総会を開催することとします。 総会は会員の過半数（委任状を含む）の出席で成立します。

2．理事会＝総会に次ぐ決議機関で、代表理事が招集します。
3．常任理事会＝総会および理事会の決定にしたがい、会務の執行・運営にあたります。
代表理事が招集します。
4．正副支部長会＝支部活動方針の執行･運営にあたり、支部相互の活動の交流･研鑽･向上をはかります。
専務理事が招集します。
5．正副委員長・部会長会＝委員会・部会活動方針の執行・運営にあたり、委員会・部会相互の活動の交流・研鑽・向上をはかります。専務理事が招集します。

第4章　役　　員

第７条【役　員】本会に次の役員をおき、職務にあたります。
1．理　　事＝若干名とし、総会で選出いたします。
2．代表理事＝会務の全般を統括し、内外に会を代表します。
3．副代表理事＝代表理事を補佐し、代表理事事故ある時はその職務を代行します。代表理事、副代表理事の人数は必要に応じて理事会が決定し、理事会において互選します。
4．専務理事＝理事会において１名選出し､総会および理事会の決定に従い日常的に会の業務を統括します。
5．常任理事＝若干名とし、理事会において互選します。
6．会計監査＝総会において２名選出します。
7．その他＝理事会の推薦により、会長、顧問、相談役をおくことができます。
第８条【任　期】役員の任期は１年間とし、再選をさまたげません。

第5章　事　務　局

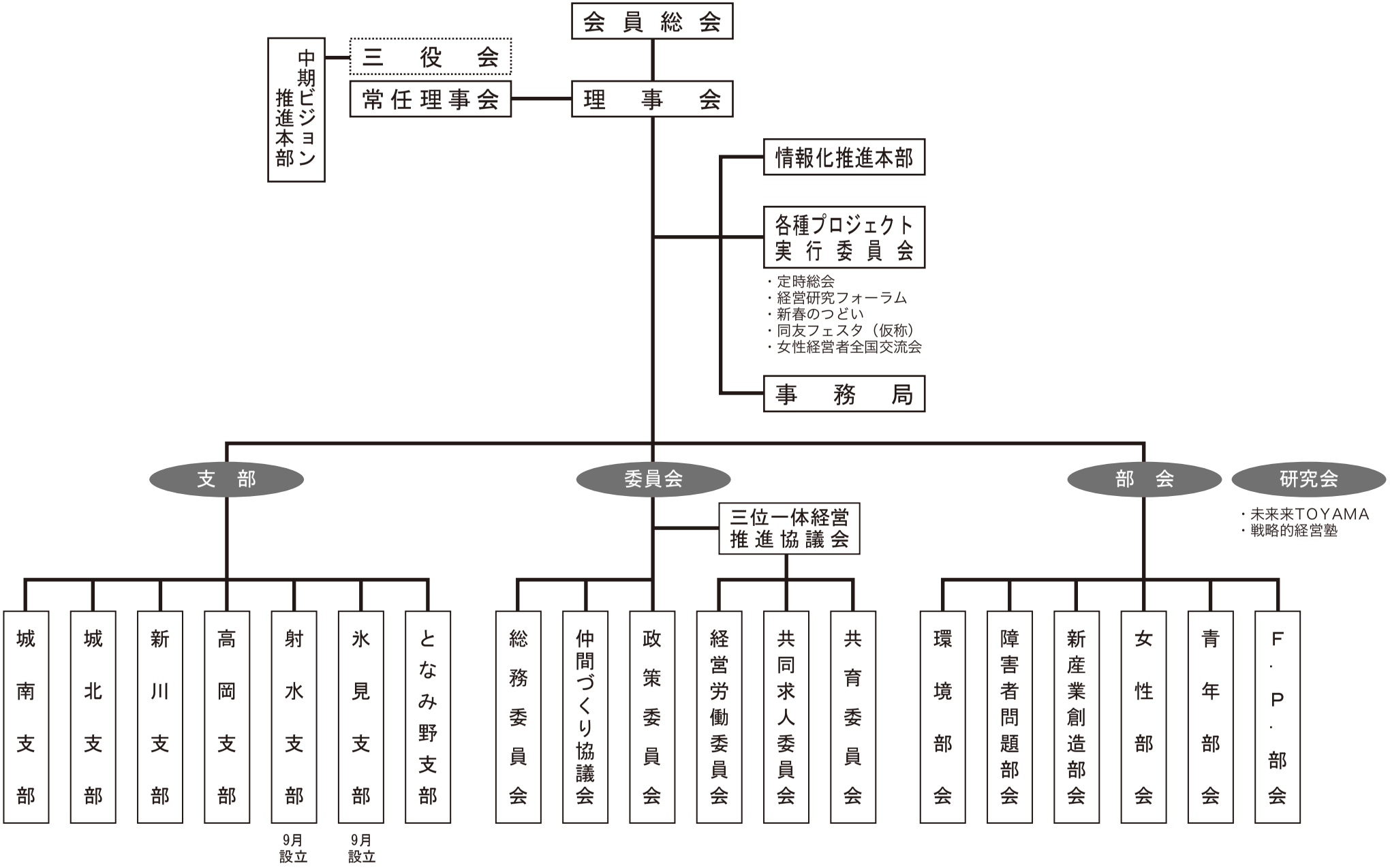
第９条【事務局】本会の日常業務を執行するため、事務局をおきます。事務局員の任免は理事会がおこない、事務局長１名を任命します。事務局長は事務局を統括します。

第6章　会　　計

第 10 条【会計年度】本会の会計年度は、毎年４月１日から翌年３月 31 日までとします。
第 11 条【財　政】本会の財政は、入会金、会費、臨時会費、寄付金その他の収入でまかないます。なお、納入された入会金、会費は返却しないこととします。

第7章　付　　則

第 12 条【規約の改廃】この規約の改廃は、総会でおこないます。
第 13 条【中同協への加入】本会は、中小企業家同友会全国協議会（中同協）に加入します。
第５条に定める会費の中に、中同協の分担金と同会の機関誌「中小企業家しんぶん」の購読料および郵送料が含まれるものとします。
第 14 条【規則の改廃】規約に基づく必要な規則は別に定め、改廃は理事会でおこないます。
第 15 条【実　施】この規約は、昭和 55 年６月８日から実施します。

1980 年６月 ８ 日　制定施行　1981 年６月 ７ 日　改正施行
1982 年５月 23 日　改正施行　1983 年５月 19 日　改正施行

富山県中小企業家同友会組織機構